様式第２号の１－①【⑴実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第２号の１－②を用いること。

学校名	名城大学
設置者名	学校法人名城大学

１．「実務経験のある教員等による授業科目」の数

学部名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数				省令で定める基準単位数	配置困難
			全学共通科目	学部等共通科目	専門科目	合計		
法学部	法学科	夜・通信	0	16	24	40	13	
経営学部	経営学科	夜・通信	0	0	26	26	13	
	国際経営学科	夜・通信	0	0	20	20	13	
経済学部	経済学科	夜・通信	0	0	26	26	13	
	産業社会学科	夜・通信	0	0	26	26	13	
理工学部	数学科	夜・通信	0	2	25	27	13	
	電気電子工学科	夜・通信	0	0	14	14	13	
	化学・物質学科	夜・通信	0	2	37	39	13	
	材料機能工学科	夜・通信	0	2	23	25	13	
	応用化学科	夜・通信	0	0	18	18	13	
	機械工学科	夜・通信	0	0	26	26	13	
	交通機械工学科	夜・通信	0	0	28	28	13	
	メカトロニクス工学科	夜・通信	0	0	13	13	13	
	社会基盤デザイン工学科	夜・通信	0	2	24	26	13	
	環境創造工学科	夜・通信	0	2	15	17	13	

	建築学科	夜・通信	0	2	52	54	13	
農学部	生物資源学科	夜・通信	0	4	22	26	13	
	応用生物化学科	夜・通信	0	4	19	23	13	
	生物環境科学科	夜・通信	0	4	16	20	13	
薬学部	薬学科	夜・通信	0	0	36.5	36.5	19	
都市情報学部	都市情報学科	夜・通信	0	2	30	32	13	
人間学部	人間学科	夜・通信	0	4	26	30	13	
外国語学部	国際英語学科	夜・通信	0	6	24	30	13	
情報工学部	情報工学科	夜・通信	0	6	53	59	13	

（備考）
理工学部化学・物質学科　：2026 年度開設。設置計画に基づき計上している。
理工学部材料機能工学科、応用化学科　：
2026 年度から学生募集停止。2025 年度の教育課程に基づき計上している。

２．「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

https://www.meijo-u.ac.jp/about/public/work_experience.html

３．要件を満たすことが困難である学部等

学部等名
（困難である理由）

様式第２号の２－①【⑵-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第２号の２－②を用いること。

学校名	名城大学
設置者名	学校法人名城大学

１．理事（役員）名簿の公表方法

https://www.meijo-u.ac.jp/about/outline/pdf/directors.pdf

２．学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容や期待する役割
常勤	株式会社代表取締役社長 社長執行役員	2026/6/1～ 2028.6 定時評議員会終結の時	財務、広報
非常勤	公益財団法人　会長	2026/1/29 ～ 2027.6 定時評議員会終結の時	
（備考）			

様式第２号の３【⑶厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	名城大学
設置者名	学校法人名城大学

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

１．授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書（シラバス）を作成し、公表していること。
（授業計画書の作成・公表に係る取組の概要） 授業計画（シラバス）は、前年 11 月から 12 月にかけて専任教員及び非常勤講師に作成を依頼し、校正を経て、教務システムに反映させる。在学生の新年度ガイダンスを 3 月下旬に実施することから、この時期に次年度のシラバスを本学ホームページで公開している（履修登録は 4 月から可能）。 各教員には「名城大学シラバス作成要項」を配布し、作成にあたり、項目ごとに記述例も含め、詳細な説明をしている。本学のシラバスの主な項目は次のとおりである。 ・準備学習・事後学習　・課題・定期試験に対するフィードバック ・授業の概要と目的　・到達目標 ・実務経験と授業内容の関係　・科目ナンバリングコード ・授業計画（各回の項目，内容）　・授業方法の形式 ・成績評価方法及び評価基準 各教員の校正の後、シラバス作成要項に基づいて各教員が作成したシラバスの内容を教務委員等の担当者が「シラバス第三者チェック表」などを用いて確認をしている。なお、シラバス作成要項は毎年内容を見直し、記述例を追加するとともに、各教員がシラバス作成後、自己点検できるように「セルフチェックシート」を添付している。科目担当教員と学部組織が協力して、学生に対して、分かり易いシラバスを作成し、学生の履修登録に資する授業科目の情報を公表している。

授業計画書の公表方法	https://gkmsyllabus.meijo-u.ac.jp/camweb/slbssrch.do （名城大学ホームページ内「シラバス検索」）

２．学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。
（授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要） 名城大学アセスメント・ポリシーにおいて、科目レベルの評価はシラバスに記載してある方法で成績評価を行い、テストやレポートなど科目の内容に合わせた方法で実施することを定めている。 これを受けて、各教員は、シラバスの「成績評価方法及び評価基準」において、当該科目の到達目標に対する達成度の評価方法及び評価基準を具体的に記述し、成績評価を行っている。 各教員には、シラバス作成要項において「到達目標に対する評価方法及び評価基準をできる限り詳しく記述する」こと、各評価方法の割合をすべて「%」表記で統一することを要請している。 また、シラバス作成要項には評価方法の記述例を示し、曖昧になりがちな「平常点」については授業参加度○%、発言頻度□%、授業態度△%などと具体例を挙げ、客観的、かつ、明確な成績評価に繋がるように工夫している。 【名城大学のアセスメント・ポリシー】 大学及び学科レベルでは、ディプロマ・ポリシーの科目群ごとの GPA の数値に加えて、単位取得状況、学修行動調査、卒業時調査及び学生アンケートにより評価する。 科目レベルでは、シラバスに記載してある方法で成績評価を行う。評価は、テストやレポートなど科目の内容に合わせた方法で実施する。 卒業研究については、各学部が定める評価基準に基づいて卒業論文等の成果を評価し、大学及び学科レベルでは、その集計値で評価する。

３．成績評価において、ＧＰＡ等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。
（客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要） 本学では、成績評価に応じて GP に換算し、GPA を算出している。具体的には、次のとおり、履修登録科目の成績評価を点数換算し、それを科目の総単位数で除して算出している。なお、GPA をより厳密に算出することを目的に、GP の換算方法を見直し、2024 年度から 12 段階の区分に変更している。GPA は各学科の成績分布状況の把握に活用するとともに、学部で定める基準に満たない学生には履修指導等を行っている。 （2024 年度以降適用） 換算方法 100～95 点＝4.3、94～90 点＝4.0、 89～87 点＝3.7、86～83 点＝3.3、82～80 点＝3.0、 79～77 点＝2.7、76～73 点＝2.3、72～70 点＝2.0、 69～67 点＝1.7、66～63 点＝1.3、62～60 点＝1.0、 59 点以下・欠席・欠格＝0 GPA 算出方法 (科目の単位数×その科目の GP)の合計 履修登録科目の総単位数 ＊1 ＊1　認定科目、自由科目、教職課程科目および学芸員課程科目等は含まない。 上記算出方法は各学部学生便覧（本学ホームページに掲載）において、成績分布状況は本学ホームページにおいて公表している。

客観的な指標の 算出方法の公表方法	https://www.meijo-u.ac.jp/student_staff/guidebook.html （各学部学生便覧「全学共通事項」に記載。）

４．卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。	
（卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要） 本学では、大学全体の学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）とともに、名城大学学則に定める「人材の養成に関する目的」に基づき、学科ごとに卒業時に修得しておくべき学修成果や卒業要件等を明確にした学位授与方針を策定・明示している。 また、全学で掲げる学位授与方針の達成状況は、教育の質保証、学修成果の可視化の観点から、在学時（２年次以降）に学生アンケートを実施し、確認している。このアンケートでは、「教養教育」、「専門教育」及び「主体的な学び・成長実感」について質問し、学生の成長を確認している。 【名城大学の学位授与方針】 名城大学は、「穏健中正で実行力に富み、国家、社会の信頼に値する人材を育成する」という立学の精神に基づき、次の資質・能力を身につけた学生に学位を授与します。 ①幅広い教養を身につけ、広い視野に立って物事の公正な判断をすることができる。 ②専門分野に熟達し、社会における諸問題の解決のためにその知識・能力を活用できる。 ③主体的に学び続け、学んだことを分かち合い、共に成長することができる。 各学部では、学位授与方針に示す資質・能力を身につけさせるため、各学科で適切な教育課程を編成し、実施している。また、人材養成目的及び学位授与方針の達成につながる履修の系統性を明示するために、卒業に必要な合計単位数のみならず、科目区分ごとの必要単位数を設定している。卒業の判定にあたっては、所定の年数を在学し、当該学科の教育課程に従い卒業に必要な単位数を修得している者に対し、各学部教授会における学位授与方針を踏まえた議を経て、決定している。	
卒業の認定に関する方針の公表方法	【人材の養成に関する目的】 https://www.meijo-u.ac.jp/about/outline/pdf/regulations_2024-1.pdf（名城大学学則第３条の２） 【名城大学の学位授与方針】 https://www.meijo-u.ac.jp/about/outline/pdf/univ.pdf 【学生アンケートによる学位授与方針の達成状況】 https://www.meijo-u.ac.jp/about/public/achievement.html

様式第２号の４－①【⑷財務・経営情報の公表（大学・短期大学・高等専門学校）】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第２号の４－②を用いること。

学校名	名城大学
設置者名	学校法人名城大学

１．財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	https://www.meijo-u.ac.jp/about/outline/finance.html
収支計算書又は損益計算書	https://www.meijo-u.ac.jp/about/outline/finance.html
財産目録	https://www.meijo-u.ac.jp/about/outline/finance.html
事業報告書	https://www.meijo-u.ac.jp/about/ms26/
監事による監査報告（書）	https://www.meijo-u.ac.jp/about/outline/finance.html

２．事業計画（任意記載事項）

単年度計画（名称：　事業計画書　　対象年度：　2026 年度　　）
公表方法：https://www.meijo-u.ac.jp/about/ms26/
中長期計画（名称：　中期事業計画　　対象年度：　2021 年度～2026 年度　）
公表方法：https://www.meijo-u.ac.jp/about/ms26/

３．教育活動に係る情報

（１）自己点検・評価の結果

公表方法：https://www.meijo-u.ac.jp/about/outline/valuation/assurance.html

（２）認証評価の結果（任意記載事項）

公表方法： https://www.meijo-u.ac.jp/about/outline/valuation/accreditation.html

（３）学校教育法施行規則第 172 条の２第１項に掲げる情報の概要

①教育研究上の目的、卒業又は修了の認定に関する方針、教育課程の編成及び実施に関する方針、入学者の受入れに関する方針の概要

学部等名　法学部
教育研究上の目的（公表方法：https://www.meijo-u.ac.jp/academics/law/）
（概要） 法学部は、法的思考及び法的素養を修得させることにより、社会のみならず自己に対する客観的な視点を持ち、正義感と倫理観を兼ね備えて、自分で考え判断することのできる人材の養成を目的としています。
卒業又は修了の認定に関する方針 （公表方法：https://www.meijo-u.ac.jp/about/outline/policy.html）
（概要） 【法学部 法学科】 法学科は、本学の立学の精神と、本学科の人材養成目的である「法的思考および法的素養を修得させることにより、社会のみならず自己に対する客観的な視点を持ち、正義感と倫理観を兼ね備えて、自分で考え判断することのできる人材の養成」に基づき、次の資質・能力を身につけた学生に学士（法学）の学位を授与します。 ①社会と人間に対する原理的考察力を修得している。 ②法律の条文と調べ方に関する知識と、個々の条文の背景にある制度および原理原則に対する理解を身につけ、法の解釈と適用を行う思考力を修得している。 ③社会や組織の構造を理解し、構成員として多様な役割を果たすことができるように、生涯にわたって主体的、自立的に学ぶ能力と協働する能力を身につけている。
教育課程の編成及び実施に関する方針 （公表方法：https://www.meijo-u.ac.jp/about/outline/policy.html）
（概要） 【法学部 法学科】 法学科は、本学科の教育目標を達成し、学位授与方針に示す資質・能力を身につけさせるため、教養教育部門と専門教育科目より構成される教育課程を編成し、実施します。いずれの科目群・部門においても一定以上の単位数の修得が義務づけられ、法学・政治学に関する深い知識・理解を身につけるために、幅広い学修を求めています。 ①教養教育部門は、「基礎教育科目群」、「外国語科目群」、「体育科目群」から構成され、これらの科目を幅広く履修することにより、豊かな人間性を育むとともに、コミュニケーション能力、情報活用能力、論理的思考力など、基本的技能を養うことができるようにする。また、「国際法文化プログラム」および「アジア法政プログラム」を設置して、法的知識と語学力、国際的な視野を修得する機会を確保する。 ②専門教育科目は、「共通部門」、「演習部門」、「基礎法学部門」、「公法部門」、「刑事法部門」、「民事法部門」、「企業・社会法部門」、「政治学部門」、「国際法部門」に分けられている。法学科の教育課程は、法に関する基本的な知識と思考力を身につけさせるべく、基本科目（いわゆる六法科目）を充実させるとともに、社会の多元化および学生の多様で専門化した関心に応えるべく、多数の展開的科目（いわゆる六法科目以外の科目であって、基礎法学、政治学などを含む）を柔軟に配置する。これらの講義科目と併せて、少人数の演習科目を配置する。 ③法学科では、1 年次から 4 年次までの各学年において演習科目を開講し、少人数で相互に学ぶ機会を確保する。特に、1 年次前期は、全員が「基礎演習Ⅰ」を履修し、大学生としての学び、法律学を学ぶための基礎力を身につける機会を持たせる。また、「行政専門コース」および「法専門コース」（2 年次より希望する学生が所属）

の所属学生に専用の「教養演習」、「応用演習」、「法務演習」を開講し、将来の進路に向けた能力と意欲の涵養を図る。 ④法学科の学修成果評価基準に基づいて、厳格な成績評価と単位認定を行い、また、ゼミ担当教員や教務担当教員が、GPA、修得単位数に基づいた個別指導を行うことにより、個々の達成度と将来計画に応じた学修を進めることができるようにする。また、多様な特設科目の履修を通じて、自身の進路や関心に沿った自主的な学びを促進することができるようにする。
入学者の受入れに関する方針 （公表方法：https://www.meijo-u.ac.jp/about/outline/policy.html）
（概要） 【法学部 法学科】 法学科は、本学科の教育理念・教育目標を理解し、高等学校等における学習を通じて、次のような資質・能力を身につけている人を受入れます。 ①高等学校における国語、英語の基礎的な知識とコミュニケーション力を身につけている。また、社会に対する知識と理解を備えている。 ②世界、国家、社会、そして社会を構成する人間に対する関心と想像力を持ち、本学科での学修の成果をさまざまな場面で活かすという目的意識がある。 ③法学・政治学以外の、諸々の学問分野にも興味を持てるような、知的好奇心を持ち、生涯にわたって学び続ける意欲がある。 （入試に係る取組・改善状況） 在学生の成績分布状況や、実務経験のある教員等による授業科目のシラバスを本学ウェブサイトに掲載することを通じて、本学の教育内容を受験生に広く公表し、受験校選択の一助としている。

学部等名　経営学部
教育研究上の目的（公表方法：https://www.meijo-u.ac.jp/academics/business/）
（概要） 経営学部は、国際感覚に富み、幅広い教養に支えられた経営諸科学の理論的・実践的能力を社会の多様な領域で発揮する人材の養成を目的とします。
卒業又は修了の認定に関する方針 （公表方法：https://www.meijo-u.ac.jp/about/outline/policy.html）
（概要） 【経営学部 経営学科】 経営学科は、本学立学の精神と、本学科人材養成目的「社会の諸問題に対して経営者的な視点から問題を把握し対処する能力、刻々と変化する会計とキャッシュフローに対応できる能力、マーケティング分野の今を多角的にとらえ実社会に即応できる能力を兼ね備えた人材の養成」にもとづき、次の資質・能力を身につけた学生に学士（経営学）の学位を授与します。 ①幅広い教養と語学力を身につけ、環境・地域・福祉・文化などの視点から現代社会の変化を読み解き、公正な立場で、新しい社会を切り開く能力を習得している。 ②組織経営に関する基本的な理論・手法に加え、グローバル化・情報化の進展に対応した視点から経済・社会の変化を分析し、その有り方を構想できる能力を習得している。 ③現代社会の変化に柔軟に対応しながら、社会に貢献し続けていくために、生涯にわたって主体的、自立的に学ぶ能力と協働する能力を身につけている。 【経営学部 国際経営学科】

国際経営学科は、本学立学の精神と、本学科人材養成目的「国際的な経済・経営活動に欠かせない高度な専門知識、語学力、情報処理能力を兼ね備えた人材の養成」にもとづき、次の資質・能力を身につけた学生に学士（経営学）の学位を授与します。
①幅広い教養と語学力を身につけ、環境・地域・福祉・文化などの視点から現代社会の変化を読み解き、公正な立場で、新しい社会を切り開く能力を習得している。
②企業経営の国際化に対応して世界諸地域の政治・経済・社会・文化を分析し、それを考慮した企業経営の有り方を構想できる能力を習得している。
③現代社会の変化に柔軟に対応しながら、社会に貢献し続けていくために、生涯にわたって主体的、自立的に学ぶ能力と協働する能力を身につけている。

教育課程の編成及び実施に関する方針
（公表方法：https://www.meijo-u.ac.jp/about/outline/policy.html）

（概要）
【経営学部 経営学科】
経営学科は、本学科の教育目標を達成し、学位授与方針に示す資質・能力を身につけさせるため、教養教育部門と専門教育部門より構成される教育課程を編成し、実施します。いずれの科目群においても一定以上の単位数の修得が義務付けられ、経営学の枠を超えた深い知識・理解を身につけるために、幅広い学修を求めています。
①経営学科の教養教育部門は、「基軸科目」、「人間を考える」、「社会に生きる」、「自然と生きる」、「情報教育科目」、「健康・スポーツ科学」、「言語コミュニケーション」の 7 部門から構成され、これらの科目を幅広く履修することにより、コミュニケーション能力、情報活用能力、論理的思考力など、基本的技能を養うことができるようにする。
②専門教育部門は経営学の学識を深めるための部門である。部門全体はさらに専門基礎、マネジメント、マーケティング、会計・ファイナンス、データサイエンス・情報、経済学・法学、実務・実習、ゼミナールの諸部門に分けられ、それらの部門内の諸科目は、体系性と順次性を踏まえて開講されている。特に、マネジメント、マーケティング、会計・ファイナンスの各部門の専門科目は、主たる専攻領域として選択したマネジメント、マーケティング、会計・ファイナンスの各コースに応じて重点を変え、系統的に履修することが求められる。さらに、国際フールドワークなど実社会との接点を重視する科目も受講することにより、スペシャリストとしての社会人・経済人に不可欠な高度な専門性と幅広い柔軟な知識を養うことができるようにする。
③経営学部の教育上の特徴として、初年次の基礎ゼミナール、専門ゼミナール、フィールドワークといった少人数教育の場を数多く設けている。これは「一人一人の個性が尊重される教育を実現する」という意図によるものである。こうした少人数教育の場において、自主的かつ持続的な探究心を育むとともに、他者との議論を通じて、相互理解に努めることの重要性を認識できるようにする。
④経営学科の学修成果評価基準にもとづいて、厳格な成績評価と単位認定を行い、また、ゼミ担当教員や教務担当教員が、学修行動調査や GPA、修得単位数にもとづいた個別指導を行うことにより、個々の達成度と将来計画に応じた学修を進めることができるようにする。専門ゼミナールにおける講評や表彰による評価を通じて、主体的に課題と取り組む姿勢やプレゼンテーション能力を身につけることができるようにする。

【経営学部 国際経営学科】
国際経営学科は、国際経営学科の教育目標を達成し、学位授与方針に示す資質・能力を身につけさせるため、教養教育部門と専門教育部門より構成される教育課程を編成し、実施します。いずれの科目群においても一定以上の単位数の修得が義務付けられ、経営学の枠を超えた深い知識・理解を身につけるために、幅広い学修を求めています。

①国際経営学科の教養教育部門は、「基軸科目」、「人間を考える」、「社会に生きる」、「自然と生きる」、「情報教育科目」、「健康・スポーツ科学」、「言語コミュニケーション」の 7 部門から構成され、特に言語コミュニケーションを重点的に履修する。これらの科目を幅広く履修することにより、高い語学力の上に、コミュニケーション能力、情報活用能力、論理的思考力など、基本的技能を養うことができるようにする。
②専門教育部門は国際経営に関する学識を深めるための部門である。部門全体はさらに専門基礎、国際経営・経済学、国際地域、経営学、会計・ファイナンス、データサイエンス・情報、経済学・法学、実務・実習、ゼミナールの諸部門に分けられ、それらの部門内の諸科目は、体系性を踏まえて開講されている。これらの専門科目を系統的に履修し、国際フィールドワークなど実社会との接点を重視する科目も受講することにより、国際的な経済・経営活動に欠かせない高度な専門知識、語学力、情報処理能力を養うことができるようにする。
③経営学部の教育上の特徴として、初年次の基礎ゼミナール、専門ゼミナール、フィールドワークといった少人数教育の場を数多く設けている。これは「一人一人の個性が尊重される教育を実現する」という意図によるものである。こうした少人数教育の場において、自主的かつ持続的な探究心を育むとともに、他者との議論を通じて、相互理解に努めることの重要性を認識できるようにする。
④国際経営学科の学修成果評価基準にもとづいて、厳格な成績評価と単位認定を行い、また、ゼミ担当教員や教務担当教員が、学修行動調査や GPA、修得単位数にもとづいた個別指導を行うことにより、個々の達成度と将来計画に応じた学修を進めることができるようにする。専門ゼミナールにおける講評や表彰による評価を通じて、主体的に課題と取り組む姿勢やプレゼンテーション能力を身につけることができるようにする。

入学者の受入れに関する方針
（公表方法：https://www.meijo-u.ac.jp/about/outline/policy.html）

（概要）
【経営学部 経営学科】
経営学科は、本学科の教育理念・教育目標を理解し、高等学校等における学習を通して、次のような能力・態度を身につけている人を受入れます。
①高校までの学習による基礎学力を身につけている。
② 経営学科での学修を戦略・政策の立案に活かすことに興味を持っている。
③チャレンジ精神にあふれ、感受性と積極性を持ち、生涯にわたって学び続ける意欲がある。

【経営学部 国際経営学科】
国際経営学科は、本学科の教育理念・教育目標を理解し、高等学校等における学習を通して、次のような能力・態度を身につけている人を受入れます。
①高校までの学習による基礎学力を身につけている。
②本学科での学修を戦略・政策の立案に活かすことに興味を持っている。
③チャレンジ精神にあふれ、感受性と積極性を持ち、生涯にわたって学び続ける意欲がある。

（入試に係る取組・改善状況）
在学生の成績分布状況や、実務経験のある教員等による授業科目のシラバスを本学ウェブサイトに掲載することを通じて、本学の教育内容を受験生に広く公表し、受験校選択の一助としている。

学部等名　経済学部

教育研究上の目的（公表方法：https://www.meijo-u.ac.jp/academics/economics/）

（概要）
　経済学部は、経済という一つの窓を通じて社会を見つめ、多様化・複雑化する社会に柔軟に対応できる自立的人間の養成を目的とします。

卒業又は修了の認定に関する方針
（公表方法：https://www.meijo-u.ac.jp/about/outline/policy.html）

（概要）
【経済学部 経済学科】
経済学科は、本学立学の精神と、本学部の人材養成目的、ならびに本学科の人材養成目的及び教育目標にもとづき、次の資質・能力を身につけた学生に学士（経済学）の学位を授与します。
①幅広い教養と語学力を身につけ、環境・地域・福祉・文化などの視点から現代社会の変化を読み解き、公正な立場で、新しい社会を切り開く能力を修得している。
②経済学をもちいて経済・社会の変化を分析し、その有り方を構想できる能力を修得している。
③現代社会の変化に柔軟に対応しながら、社会に貢献し続けていくために、生涯にわたって主体的、自立的に学ぶ能力と協働する能力を修得している。

【経済学部 産業社会学科】
産業社会学科は、本学立学の精神と、本学部の人材養成目的、ならびに本学科の人材養成目的及び教育目標にもとづき、次の資質・能力を身につけた学生に学士（経済学）の学位を授与します。
①幅広い教養と語学力を身につけ、環境・地域・福祉・文化などの視点から現代社会の変化を読み解き、公正な立場で、新しい社会を切り開く能力を修得している。
②経済学をもちいて経済・社会の変化を分析し、その有り方を構想できる能力を修得している。
③現代社会の変化に柔軟に対応しながら、社会に貢献し続けていくために、生涯にわたって主体的、自立的に学ぶ能力と協働する能力を修得している。

教育課程の編成及び実施に関する方針
（公表方法：https://www.meijo-u.ac.jp/about/outline/policy.html）

（概要）
【経済学部 経済学科】
経済学科は、本学科の教育目標を達成し、経済学科生が学位授与方針に示す資質・能力を身につけるために、次のような、教養教育部門と専門教育部門より構成される教育課程を編成し、実施します。学生には、科目群ごとに定められた単位数を修得し、幅広い学習を通じて経済学の枠を超えた知識を身につけることを求めます。
①教養教育部門は、広範な学問分野にわたる科目を含み、「基軸科目群」、「人文科学科目群」、「社会科学科目群」、「自然科学科目群」、「英語科目群」、「第二外国語科目群」、「情報科学科目群」、「健康・ スポーツ科学科目群」、「キャリア教育科目群」、「教養演習科目群」から構成される。本部門の諸科目を履修することにより学生は、文化、社会、自然などについての基礎的知識を習得するとともに、コミュニケーション能力、情報活用能力、論理的思考力などの汎用的技能を養う。
②専門教育部門は、経済学の学識を深めるための部門である。本部門は、「基礎科目群」、「経済理論・経済史科目群」、「経済政策科目群」、「ゼミナール科目群」、「フィールドワーク・実務科目群」から構成される。体系性と順次性を踏まえて設置された本部門の科目を系統的に履修し、経済学の知識を習得することを通じて学生は、経済・社会を分析し、その問題を発見・解決する能力を養う。
③本学科の教育上の特徴は、「一人一人の個性が尊重される教育を実現するという意

図にもとづいて、ゼミナール、フィールドワークといった少人数教育の場を数多く設けていることにある。本学科は少人数教育を通じて、学生の自主的かつ持続的な探究心を育むとともに、他者との議論を通じて、相互理解に努めることの重要性を学生に認識させる。
④成績評価と単位認定は本学科のアセスメント・ポリシーにもとづいて厳格に行う。学生が自己の達成度と将来計画に応じた学修を進めるために、ゼミナール担当教員や教務担当教員は、GPA、修得単位数、学修行動調査にもとづいた個別指導を行う。また学生が主体的に課題に取り組む姿勢やプレゼンテーション能力を身につけることができるように、ゼミナール・レポート発表会や優秀論文公募などを実施し、講評や表彰を行う。

【経済学部 産業社会学科】
産業社会学科は、本学科の教育目標を達成し、産業社会学科生が学位授与方針に示す資質・能力を身につけるために次のような、教養教育部門と専門教育部門より構成される教育課程を編成し、実施します。学生には、科目群ごとに定められた単位数を修得し、幅広い学習を通じて経済学の枠を超えた知識を身につけることを求めます。
①教養教育部門は、広範な学問分野にわたる科目を含み、「基軸科目群」 、「人文科学科目群」、「社会科学科目群」、 「自然科学科目群」、「英語科目群」、「第二外国語科目群」、「情報科学科目群 」、「健康 ・ スポーツ科学科目群」 、 「キャリア教育科目群」、「教養演習科目群」から構成される。本部門の諸科目を履修することにより学生は、文化、 社会、自然などについての基礎的知識を習得するとともに、コミュニケーション能力、情報活用能力、論理的思考力などの汎用的技能を養う。
②専門教育部門は、経済学の学識を深めるための部門である。本部門は、「基礎科目群」、「経済理論・経済史科目群」、「産業・社会科目群」 、「ゼミナール科目群」 、「フィールドワーク肇実務科目群」から構成される。体系性と順次性を踏まえて設置された本部門の科目を系統的に履修し、経済学の知識を習得することを通じて学生は、経済・社会を分析し、その問題を発見・解決する能力を養う。
③本学科の教育上の特徴は、「一人一人の個性が尊重される教育を実現するという意図にもとづいて、ゼミナール、フィールドワークといった少人数教育の場を数多く設けていることにある。本学科は少人数教育を通じて、学生の自主的かつ持続的な探究心を育むとともに、他者との議論を通じて、相互理解に努めることの重要性を学生に認識させる。
④成績評価と単位認定は本学科のアセスメント・ポリシーにもとづいて厳格に行う。学生が自己の達成度と将来計画に応じた学修を進めるために、ゼミナール担当教員や教務担当教員は、GPA、修得単位数、学修行動調査にもとづいた個別指導を行う。また学生が主体的に課題に取り組む姿勢やプレゼンテーション能力を身につけることができるように、ゼミナール ・レポート発表会や優秀論文公募などを実施し、講評や表彰を行う。

入学者の受入れに関する方針
（公表方法：https://www.meijo-u.ac.jp/about/outline/policy.html）

（概要）
【経済学部 経済学科】
経済学科は、本学科の教育理念・教育目標を理解し、高等学校等における学習を通して、次のような能力・態度を身につけている人を受入れます。
①高等学校までの学習による基礎学力を身につけている。
②経済学科での学修成果を戦略・政策の立案に活かすことに興味を持っている。
③チャレンジ精神にあふれ、感受性と積極性を持ち、生涯にわたって学び続ける意欲がある。

【経済学部 産業社会学科】
産業社会学科は、本学科の教育理念・教育目標を理解し、高等学校等における学習を通して、次のような能力・態度を身につけている人を受入れます。
①高等学校までの学習による基礎学力を身につけている。
②産業社会学科での学修成果を戦略・政策の立案に活かすことに興味を持っている。
③チャレンジ精神にあふれ、感受性と積極性を持ち、生涯にわたって学び続ける意欲がある。

（入試に係る取組・改善状況）
在学生の成績分布状況や、実務経験のある教員等による授業科目のシラバスを本学ウェブサイトに掲載することを通じて、本学の教育内容を受験生に広く公表し、受験校選択の一助としている。

学部等名　理工学部
教育研究上の目的（公表方法：https://www.meijo-u.ac.jp/academics/sci_tech/）
（概要） 理工学部は、幅広い素養を備え、社会に通用する専門知識とその応用力を持ち、科学技術者として自らの手で新しい分野を創造的に切り拓いてゆく人材の養成を目的とします。
卒業又は修了の認定に関する方針 （公表方法：https://www.meijo-u.ac.jp/about/outline/policy.html）
（概要） 【理工学部 数学科】 数学科は、本学立学の精神と本学部人材養成目的に基づき、次の①、②、③を満たし、所定の単位を修得した学生に対して学士（理学）の学位を授与します。 ①幅広い教養と深い思考力を身につけ、広い視野と高い倫理観をもって産業界・教育界をはじめ社会の発展に貢献する能力を有する。 ②科学・技術の基礎となる数学の知識を修得し、それを活用して種々の問題を解決する能力を有する。 ③社会における課題に対し主体的に問題を探求し、解決に向けて協働して取り組むことのできる能力を有する。 【理工学部 電気電子工学科】 電気電子工学科は、本学立学の精神と本学部人材養成目的に基づき、次の能力・意欲を身につけた学生に学士（工学）の学位を授与します。 ①社会の責任ある形成者として必要な教養と、英語を含むコミュニケーション力を有する。 ②電気回路、電子回路、電気磁気学、プログラミング等の電気電子工学の知識と、それらを活用して、社会での問題を発見し、解決するために必要な思考力・判断力・表現力等を有する。 ③主体的に学び続け、学んだことを分かち合い、多様な人々と協力して、電気電子工学科が重視する理工系の科学・技術を用いて社会貢献する意欲を有する。 【理工学部 化学・物質学科】 化学・物質学科は、本学立学の精神を礎として、次の資質・能力を身に着けた学生に学士（工学）の学位を授与します。 ①社会の責任ある形成者として必要な教養と、英語を含むコミュニケーション力を有する。

②さまざまな材料について、原子・分子のレベルでその性質を解明し、材料としてその機能性を高め、新たな材料設計を行うための化学や物理学の知識と、それらを活用して、社会での問題を発見し、解決するために必要な思考力・判断力・表現力等を有する。
③主体的に学び続け、学んだことを分かち合い、多様な人々と協力して、化学・物質学科が重視する理工 系の科学・技術を用いて社会貢献する意欲を有する。

【理工学部 材料機能工学科】
材料機能工学科は、本学立学の精神を礎とし、次の資質・能力を身につけた学生に学士（工学）の学位を授与します。
①幅広い教養と語学力を身につけ、広い視野と国際的な観点、ならびに、高い倫理観に基づき判断し、社会の持続と発展に資する行動と他者との協同的な振る舞いを見極めることができる。
②材料開発に必要な科学、工学、技術の基本事項を習熟し、社会における諸問題の解決のために活用できる。
③生涯にわたり主体的に学び、自立して探究することができる。さらに、この持続的な学びの成果を社会に還流し、他者と協同して、社会の持続と発展のために役立てることができる。

【理工学部 応用化学科】
応用化学科は、本学立学の精神と本学部人材養成目的に基づき、次の資質・能力を身につけた学生に学士（工学）の学位を授与します。
①幅広い教養と語学力・表現力を身につけ、それに裏打ちされた広い視野と高い倫理観をもって、社会の発展に貢献する意思と能力を有する。
②化学に関する専門分野において以下の能力を有する。
　１）化学の持つ有用性と危険性を十分理解し、化学物質の取り扱いが安全にできる能力
　２）化学的な評価技術を用い、環境や安全面に係る化学物質の正当な評価ができる能力
　３）化学的な問題を抽出し、解決までの道筋を立てられるエンジニアリングデザイン能力
　４）社会的要請を理解し、化学的な知識に立脚して問題解決に取り組む能力
③生涯にわたり主体的、自立的に探究する能力を身につけ、さらに、社会において課題解決に向けて協働して取り組むことのできる能力を有する。

【理工学部 機械工学科】
機械工学科は、本学立学の精神と本学科人材養成目的に基づき、機械工学科において 4 年以上在学し、学科が定める卒業に必要な 124 単位以上を修得した上で、以下の要件；①、②、③を満たす学生に対して卒業を認定し、学士（工学）の学位を授与します。
①機械技術者として必要な教養と倫理観を有し、技術者としての社会的責任を自覚した上で、広い視野を持って判断できる。
②機械技術者として専門的な基礎学力と科学技術の応用力を持ち、時代のニーズに適合した技術を活用できる。
③自立した技術者として問題を発見し、課題解決に向けて主体的に学ぶと同時に他者と協働して取り組むことで、社会から信頼される資質を有する。

【理工学部 交通機械工学科】
交通機械工学科は、本学立学の精神と本学科の人材養成目的に基づき、以下の要件；①、②、③を満たす学生に対して卒業を認定し、学士（工学）の学位を授与します。
①幅広い教養と語学力を身につけ、それに裏打ちされた広い視野と高い倫理観をもって、交通機械の発展に貢献する意志と能力を有する。
②機械工学と交通機械工学の専門分野に応じた科学・技術の基礎となる知識を修得し、それを活用して機械技術者として種々の問題を解決する能力を有する。
③機械工学と交通機械工学に関して、生涯にわたり主体的、自立的に探究する能力を身につけ、さらに、社会においてそれらの課題解決に向けて協働して取り組むことのできる能力を有する。

【理工学部 メカトロニクス工学科】
メカトロニクス工学科は、本学立学の精神と本学科が掲げる人材養成目的を具現化するために身に付けるべき能力、資質、姿勢を総合的に勘案し、次の 3 つの能力を有する学生に対して、学士（工学）の学位を授与します。
①技術者としての社会適応性を有し、物事を客観的に議論できる能力
②機械・電気のハードウェアを有するメカトロニクスシステム、および、その要素機器を理解できる能力
③機械・電気・情報についての基礎知識を演習を通じて実践的な能力に高め、学びの中で得た知識・経験を社会で応用・表現できる能力

【理工学部 社会基盤デザイン工学科】
社会基盤デザイン工学科では、本学立学の精神と本学科の教育目的に基づき、以下の要件；①、②、③を満たす学生に対して卒業を認定し、学士（工学）の学位を授与します。
①人類ならびに社会の文化的・歴史的視点に立った多様な価値観と技術者としての倫理観、および他者を理解しながら協調して計画的に仕事を進めることのできる能力を有する。
②自然科学の基礎知識ならびに応用能力、および専門主要分野における基礎知識と応用知識を有する。
③専門技能とその応用能力と、課題を設定し、専門知識を総合化し、社会変化と新たな技術に対応した解決策を自ら模索して提案できる能力、および専門技術者に必要なコミュニケーション能力を有する。

【理工学部 環境創造工学科】
環境創造工学科は、本学立学の精神と新しい学問分野として以下の 5 つの柱からなる「環境創造工学」を掲げ、これらの柱を基本とした教育を行います。
（1）環境に配慮した生活態度と環境問題を発生させない心構えを醸成させる。（環境の心）
（2）エネルギー・資源の有効利用に取り組む。（エネルギー・資源問題の解決）
（3）良好な環境の保全と悪化した環境の復元・改善に取り組む。（環境の保全と復元・改善）
（4）自然との調和を図る。（自然との共生）
（5）新しい環境システムを創出する。（環境創造）
次の資質・能力を身につけた学生に学士（工学）の学位を授与します。
①多様な価値観を形成するため、幅広い教養を身につけ、広い視野に立って物事の公正な判断をすることができる。
②環境の改善と新たな環境の創出のための問題の解決にその知識・能力を活用できる。

③技術革新や社会状況の変化に対応できるように、主体的に学び続け、学んだことを分かち合い、ともに成長することができる。

【理工学部 建築学科】
建築学科は、本学立学の精神と本学科人材養成目的に基づき、以下の要件；①、②、③を満たす学生に対して卒業を認定し、学士（工学）の学位を授与します。
①幅広い教養と語学力を身につけ、それらに裏打ちされた広い視野と高い倫理観をもって社会の発展に貢献する意志と、それを実現するための能力を有する。
②建築分野に必要な工学の基礎知識と芸術の感性を身につけ、居住性・安全性・審美性・環境調和性を重視した空間創造の基本的能力を有する。
③生涯にわたり主体的、自立的に探究する能力を身につけ、さらに、社会において課題解決に向けて協働して取り組むことのできる能力を有する。

教育課程の編成及び実施に関する方針
（公表方法：https://www.meijo-u.ac.jp/about/outline/policy.html）

（概要）
【理工学部 数学科】
数学科は、数学の本質・魅力をていねいに基礎から教え、学科教育目標を達成し、卒業認定・学位授与の方針に示す能力を身につけることができるよう、教養教育と専門教育より構成される教育課程を編成し、実施します。
①教養教育は、総合基礎部門の科目と理工学基礎科目から構成され、これらの科目を幅広く履修することにより、専門分野を越えた幅広い視野と倫理観を養う。同時に、数理基礎力、論理的思考力、コミュニケーション能力、情報活用能力などの基本的技能と、専門教育に進む上で欠くことのできない数学および他分野の知識を修得できるようにする。
②専門教育では、理工学基礎科目から始め、基礎から応用へ数学の専門知識を深めるように、体系的に編成された教育課程を実施する。特に、代数学、解析学、幾何学、数理情報、計算機科学の 5 分野を柱として、講義科目とそれに関連する演習・実習が有機的に結びついたカリキュラムを編成する。単に計算技術だけでなく、幅広い専門知識と数学的思考力を修得し、物事を数学で表現する力と様々な問題を数学的に解決する力を養うことができるようにする。
③初年次から、複数の専門科目で関連する演習・実習を実施して、能動的学修を行うことができるようにする。4 年次の数学講究では、自主的な学修・発表を通じて主体性と協力性を身につけ、生涯にわたり活かすことのできる総合的・多角的考察力、創造的思考力と数学的表現力が培われるようにする。
④各授業科目において定量的指標にもとづく厳格な成績評価により単位認定を行う。成績評価は個別成績表に記載して学修指導や各種順位づけに利用できるようにする。さらに GPA 値も一つの参考としつつ、学修行動調査、成績等にもとづいて個別指導する体制により、個々の達成度と将来計画に応じた学修を進めることができるようにする。

【理工学部 電気電子工学科】
電気電子工学科は、卒業認定・学位授与の方針に示す能力・意欲を身につけさせるため、教養教育（総合基礎部門）と専門教育（専門教育部門）からなる教育課程を体系的に編成し、実施します。
①教養教育は、人文・社会科学、語学、体育等からなる。これらの科目の履修を通して、社会の責任ある形成者として必要な教養と、英語を含むコミュニケーション力を身につける。
②専門教育は、数学、物理学、化学、技術者倫理等の理工学の共通科目と電気回路、電子回路、電気磁気学、プログラミング等の電気電子工学の科目からなる。講義・演

習・実験等を適切に組み合わせたこれらの科目の履修を通して、電気電子工学の知識と、それらを活用して、社会での問題を発見し、解決するために必要な思考力・判断力・表現力等を身につける。
③演習・実験での少人数のグループワーク、集団討論や卒業研究での担当教員との討論、プレゼンテーション、さらにキャリア教育での多様な活動等を通して、主体的に学び続け、学んだことを分かち合い、多様な人々と協力して、電気電子工学科が重視する理工系の科学・技術を用いて社会貢献する意欲を身につける。
④シラバスに示す厳格な成績評価と単位認定を行うとともに、修得単位数にもとづく個別指導を行うことにより、個々の学生の達成度に応じた学修を進めることができるようにする。

【理工学部 化学・物質学科】
化学・物質学科は、学位授与方針に示す資質・能力を学生に身に着けさせるため、次のような教育課程を編成し、教育します。
①教養教育課程では、人文・社会科学、語学、体育等からなる教養教育科目の履修を通して、多様な価値観に触れ、社会の責任ある形成者として必要な教養と、英語を含むコミュニケーション力を身につける。
②専門教育課程では、数学、物理学、化学、技術者倫理等の理工学基礎科目と、学科配当の開講科目である物理化学、有機化学、無機化学、量子力学、材料力学等からなる専門科目によって編成される専門教育部門の講義科目の履修を通して、化学や物理学の専門知識と、それらを活用して、社会での問題を発見し、解決するために必要な思考力・判断力・表現力等を身につける。
③演習・実験・実習における少人数でのグループワーク、集団討論や卒業研究での担当教員との討論、プレゼンテーション、さらにキャリア教育での多様な活動等を通して、生涯にわたって主体的に学び、学んだ ことを分かち合い、多様な人々と協力して、化学・物質学科が重視する理工系の科学・技術を用いて社会貢献する意欲を身につける。
④シラバスに示す厳格な成績評価と単位認定を行うとともに、GPA や修得単位数にもとづく個別指導を行うことにより、個々の学生の達成度と将来計画に応じた学修を進めることができるようにする。

【理工学部 材料機能工学科】
材料機能工学科は、学位授与方針に示す資質・能力を学生に身につけさせるため、次のような教育課程を編成し、教育します。
①教養教育課程では、人文・社会・語学、体育等の科目からなる教養教育科目群を体系的に編成する。講義、演習、実習、実技等の多彩な授業実施方法を準備することで、学生は、様々な価値観に触れ、国際的な視野を滋養し、物事を多角的にとらえる資質・能力を身につけることができる。さらに持続的な社会発展に向け行動し、協同的な貢献をできるようにする。
②専門教育課程では、はじめに、数学、物理学、化学、情報技術、技術者倫理等からなる理工学の基礎科目群を重点的に修得し、続いて、応用数学、電磁気学、材料力学等の導入科目群に入門し、最終的に、それらの科目群を礎にした学科の専修科目群で応用力を身につける。一連の科目は、授業実施方法として、講義、演習、実験、実習などの最適な形態で行われるとともに、学年年次の流れに対し縦横に渡り有機的につながり、体系化されることで、学位授与方針の要件②に示される資質・能力に磨きをかけることができる。
③本方針の教育課程の要件①と②に謳われる科目群を講義、演習、実験、実習等の方法で能動的に学修することにより、立学の精神を理解し、生涯にわたって主体的に学び、社会における様々な考えを受け入れることができるようにする。具体的には、

他者の立場を理解しながら協同的に関わり、課題に取り組むことができ、卒業後も、広い視野と国際的観点を自立的に育み、目まぐるしく変化する状況に機微に対応し、正しく社会貢献できるようにする。
④学修成果に対する厳格な成績評価と単位認定を行うとともに、学修行動調査やGPA、修得単位数等にもとづくきめ細かい指導を継続して行うことにより、各学生の将来計画に応じた学修を進められるようにする。

【理工学部 応用化学科】
応用化学科は、卒業認定・学位授与の方針に示す能力を身につけさせるため、教養教育と専門教育より構成される教育課程を編成します。二つの分野において一定数以上の単位の修得を義務付け、理学あるいは工学の枠を超えた深い知識・理解を身につけるための幅広い学修を求めます。以下の１）～４）に示す専門的能力を有する人材を育成するため、教育課程を編成し、実施します。
１）化学物質の持つ特性を正当に評価し、倫理観を持って社会還元ができる能力を持つ人材
２）社会的要請に対応し、新たな化学物質の開発に係る基本方針が理解できる人材
３）化学の領域だけに留まらず、幅広い理工学の領域に発展に協力することができる人材
４）国際化社会に対応できる情報収集能力を身に付け、公正な倫理意識を有する人材
①教養教育は、外国語、体育科学、人文科学、社会科学等の教養科目と数学、物理学、化学、技術者倫理等の理工学基礎科目により編成される。これらの科目を学ぶことにより専門分野を超えた幅広い視野と倫理観を養うと共に、専門教育に進む上で欠くことのできない知識を養うことができるようにする。
②専門教育では、理学あるいは工学の専門知識を深めるために基礎から応用への順次性を保ちながら、科目相互を体系的に編成している。化学の専門分野に関する講義科目と、それに関連する演習・実験・実習が有機的に結びついた授業を実施することにより、机上の学修にとどめず幅広く専門知識を学び、社会の変化に自在に対応して問題解決する能力を養うことができるようにする。
③教養教育で能動的学修の要素を取り入れた教育を用意する。さらに、専門教育では動機付けの教育を行うと共に、複数の科目でそれに関連する演習・実験・実習科目を実施して、能動的学修を行うことができるようにする。最終学年の 4 年次で行う卒業研究では、主体的に学ぶ姿勢と共に、他者と協力しながら課題を解決し、生涯にわたって活かすことのできる総合的学習と創造的思考力が培われるようにする。
④応用化学科では、シラバスに示した内容に基づいて厳格に成績評価して単位認定する。学生個別の成績表にもそれを記載して学修指導や各種順位づけに利用できるようにする。成績や学修態度を総合的に判断して個別指導する体制を整え、学生が各自の達成度と将来計画に応じた学修を進めることができるようにする。

【理工学部 機械工学科】
機械工学科は、本学科の教育目標を達成し、学位授与方針に示す資質・能力を身につけさせるため、次のような教育課程を編成し、実施します。
①教養教育は、外国語、体育科学、人文科学、社会科学等の教養科目と、数学、物理学、化学、技術者倫理等の理工学基礎科目を通じて、人として必要な教養と倫理観を養うことにより幅広い人間性を培い、全地球的な視野で物事を理解し、表現できるようにする。
②専門教育では、「熱・流体」、「材料・強度」、「設計・生産」、「運動力学・制御」の４つの分野と共通分野から成る科目群を基礎から応用へと段階的に構成することでその内容を充実させ、機械技術者に必要な基礎学力を養う。さらに、それらを機

械工学実習や機械設計基礎などの設計・実習科目の教育と有機的に結びつけることによってものづくり力を養成する。
③機械工学科では、1 年次に開講される機械工学概論ならびに機械工学実習で、学生への動機付けを行うとともに、実感教育を実施する。さらに、1 ～3 学年に配当される機械設計基礎、機械設計 1・2、機械工学実験において能動的学修の要素を取り入れ、自主性と自立性を養う。さらに、3 年次の機械工学実験や機械設計・製作では、専門的な基礎学力と科学技術応用力を駆使して、課題解決に向けて協働して取り組むことを学ぶ。最終学年（4 年次）の卒業研究では、自立した技術者として問題を発見し、解決する能力が培われるようにする。これらの教育により、生涯にわたって主体的に学び、相互理解や意見交換ができる素地を育む。
④機械工学科では、シラバスに示した内容に基づき厳格に成績を評価して単位認定を行い、学生個別の成績表に基づき学修指導や各種順位づけを行う。担任や卒業研究担当者等が学生の成績や学修態度を総合的に判断して個別指導する体制を整え、学生個々の達成度と将来計画に応じて学修を進めることができるようにする。

【理工学部 交通機械工学科】
交通機械工学科は、卒業認定・学位授与の方針に示す能力を身につけさせるため、教養教育と専門教育より構成される教育課程を編成します。二つの分野において一定数以上の単位の修得を義務付け、機械技術者として交通機械工学に関する深い知識・理解を身につけるための幅広い学修を求めます。
①教養教育は、外国語、体育科学、人文科学、社会科学等の教養科目と数学、物理学、化学、技術者倫理等の理工学基礎科目により編成される。これらの科目を学ぶことにより機械技術者として幅広い視野と倫理観を養うと共に、交通機械工学の専門教育に進む上で欠くことのできない知識を養うことができるようにする。
②専門教育では、交通機械工学の専門知識を深めるために機械工学の基礎から応用への順次性を保ちながら、科目相互を体系的に編成している。講義科目と、それに関連する演習・実験・実習が有機的に結びついた授業を実施することにより、机上の学修にとどめず幅広く専門知識を学び、機械技術者として社会の要望に自在に対応して問題を解決する能力を養うことができるようにする。
③教養教育で能動的学修の要素を取り入れた教育を用意する。さらに、専門教育では機械工学と交通機械工学を学ぶ動機付けの教育を行うと共に、複数の科目でそれに関連する演習・実験・実習科目を実施して、能動的学修を行うことができるようにする。最終学年の 4 年次で行う卒業研究では、主体性と他者との協力関係を養い、生涯にわたって活かすことのできる総合的学修と創造的思考力が培われるようにする。
④交通機械工学科では、シラバスに示した内容に基づいて厳格に成績評価して単位認定する。学生個別の成績表にもそれを記載して学修指導や各種順位づけに利用できるようにする。また、成績や学修態度を総合的に判断して個別指導する体制を整え、学生が各自の達成度を把握し、将来計画に応じた学修を進めることができるようにする。

【理工学部 メカトロニクス工学科】
メカトロニクス工学科の教育研究目標および人材養成目的を達成するため、機能モデリングのコア教育を基盤とするメカトロニクス工学科根幹科目（基礎教養、メカトロニクス工学科開講科目）と機能モデル化の基礎学力を育成する専門科目（基礎力育成科目：関連学科との連携による共同開講科目）に基づき教育課程を編成し、教育課程編成方針として、以下の諸点を掲げています。
①教養教育は、体系的教育による基礎学力の強化として、外国語、体育科学、人文科学、社会科学等の教養科目と数学、物理学、化学、技術者倫理等の理工学基礎科目に

より編成される。これらの科目を学ぶことにより専門分野を超えた幅広い視野と倫理観を養うと共に、専門教育に進む上で欠くことのできない知識を養うことができるようにする。
②専門教育では、実感教育を主体とする設計力の強化を掲げて、工学の専門知識を深めるために基礎から応用への順次性を保ちながら、科目相互を体系的に編成している。講義科目と、それに関連する演習・実験・実習が有機的に結びついた授業を実施することにより、机上の学修にとどめず幅広く専門知識を学び、社会の変化に自在に対応して問題解決する能力を養うことができるようにする。
③導入教育で PBL によるシステム構築思考の育成のための教育を用意する。さらに、専門教育では動機付けの教育を行うと共に、複数の科目でそれに関連する演習・実験・実習科目を実施して、能動的学修を行うことができるようにするとともに、分野深耕プログラムにおける繰り返し型 PBL（IPBL）を通じた理解度向上を図った教育を実施する。最終学年の 4 年次で行う卒業研究などでは、主体性と他者との協力関係を養い、生涯にわたって活かすことのできる総合的学修と創造的思考力が培われるようにする。
④シラバスに示した内容に基づいて厳格に成績評価して単位認定する。また、学生個別の成績表にもそれを記載し、GPA 評価も含めて学修指導や各種順位づけに利用できるようにする。成績や学修態度を総合的に判断して個別指導する体制を整え、学生が各自の達成度と将来計画に応じた学修を進めることができるようにする。

【理工学部 社会基盤デザイン工学科】
社会基盤デザイン工学科は、卒業認定・学位授与の方針に示す知識・能力の育成を保証するため、総合基礎部門と専門教育部門より構成される教育課程を編成するとともに、二つの部門ごとならびに育成する知識・能力ごとに一定数以上の単位の修得を義務付けます。
①教養教育は、外国語、体育科学、人文科学、社会科学等の教養科目と数学、物理学、化学、技術者倫理等の理工学基礎科目により編成している。これらの科目を学ぶことにより、多様な価値観と技術者としての倫理観を養うとともに、自然科学の基礎と応用能力を育成する。
②専門教育は、主要分野の基礎から応用までの科目で体系的に編成している。講義科目に加えて、関連する演習・実験・実習科目を適切に配置することにより、基礎から応用までの専門知識の修得を確実にするとともに、専門技能とその応用能力を育成し、また、専門分野の現象理解が深められるようにする。
③教養教育で能動的学修の要素を取り入れた教育を用意する。専門教育では動機付けの教育を行うとともに、演習・実験・実習科目に能動的学修の要素を取り入れて、自己学修能力を育む。測量学実習などのグループで取り組む科目によって、協調性や他者との相互理解力も養う。4 年次で行う卒業研究では、高度なコミュニケーション能力を養うとともに、知識を総合化した創造的思考力と問題解決能力を育成する。
④シラバスに示した内容に基づいて厳格に成績評価して単位認定する。学生個別の成績表にもそれを記載して学修指導や各種順位づけに利用できるようにする。成績や学修態度を総合的に判断して個別指導できる教育支援システムを整備し、学生が各自の達成度と将来計画に応じた学修を進めることができるようにする。

【理工学部 環境創造工学科】
環境創造工学科の教育目標は、以下の 5 つを達成することとします。
（1）多様な価値観と基礎知識
（2）技術者倫理と環境倫理
（3）専門基礎知識とその応用
（4）コミュニケーション能力

（５）高度な技術者への基礎作り
学位授与方針に示す資質・能力を身につけさせるため、次のような教育課程を編成し、実施します。
①教養教育は、人文・社会・自然科学、語学、情報技術、体育等からなる課程を体系的に編成し、様々な価値観に触れ、物事を正しく理解し表現できるようにする。
②専門教育では、環境創造に係わる課程を体系的に編成し、講義・演習・実験・実習等を適切に組み合わせた授業を実施することにより、専門分野の知識・能力を確実に修得し、問題解決のために活かすことができるようにする。
③環境創造に係わる初年次教育や演習・実験・実習科目を中心にアクティブ・ラーニングの要素を取り入れることにより、生涯にわたって主体的に学び、他者との相互理解や意見交換ができるようにする。
④シラバスに示した内容に基づいて厳格に成績評価して単位認定する。学生個別の成績表にもそれを記載して学修指導や各種順位づけに利用できるようにする。成績や学修態度を総合的に判断して個別指導できる教育支援システムを整備し、学生が各自の達成度と将来計画に応じた学修を進めることができるようにする。

【理工学部 建築学科】
建築学科は、卒業認定・学位授与の方針に示す能力を身につけさせるため、教養教育と専門教育より構成される教育課程を編成します。二つの分野において一定数以上の単位の修得を義務付け、建築学の枠を超えた深い知識・理解を身につけるための幅広い学修を求めます。
①教養教育は、外国語、体育科学、人文科学、社会科学等の教養科目と数学、物理学、化学、技術者倫理等の理工学基礎科目により編成される。これらの科目を学ぶことにより専門分野を超えた幅広い視野と倫理観を養うと共に、専門教育に進む上で欠くことのできない知識を養うことができるようにする。
②専門教育では、基礎から応用への順次性を保ちながら、科目相互を体系的に編成している。講義科目と、それに関連する設計・演習・実験・実習が有機的に結びついた授業を実施することにより、建築学の各専門分野に関する基礎知識と芸術の感性を身につけることができるようにする。また、各学生の適性や将来の進路に応じて、必要な分野の専門知識を深めるとともに、卒業後に取得が望ましい国家資格に対応できる十分な基礎力を修得できるようにする。
③教養教育と専門教育を通して、能動的学修の要素を取り入れた教育を用意すると共に、設計・演習・実験・実習科目により、さまざまな課題に対する解決力・応用力を養う。卒業研究・卒業制作等では、自主性やコミュニケーション能力を養い、一級建築士等の技術者として生涯にわたり活かすことのできる総合的学修と創造的思考力が培われるようにする。
④シラバスに示した内容に基づいて厳格に成績評価して単位認定する。学生個別の成績表にもそれを記載して学修指導や各種順位づけに利用できるようにする。成績や学修態度を総合的に判断して指導する体制を整え、学生が各自の達成度と将来計画に応じた学修を進めることができるようにする。

入学者の受入れに関する方針
（公表方法：https://www.meijo-u.ac.jp/about/outline/policy.html）

（概要）
【理工学部 数学科】
数学科の教育目標と卒業認定の方針を理解し、高等学校等での学習を通して、次のような能力・意欲を身につけている人を受け入れます。
①一般選抜では、数学、理科および英語の高い基礎学力を有する。学校推薦型選抜・特別入学試験では、高等学校教育の内容を堅実に修得し、数学、理科および英語の基礎学力を有する。総合数理プログラム入試では、数学、理科または英語の高い基礎

学力を有する。
②数学、理科および英語の基礎学力を活用して、自ら問題を考え、自主的に問題解決に取り組み、その成果をまとめるために必要となる思考力・判断力・表現力を有する。
③数学に深く興味を持ち、主体的に様々な人々と協力しながら数学的思考能力を活用して社会貢献する意欲を有する。

【理工学部 電気電子工学科】
電気電子工学科の卒業認定・学位授与の方針を理解し、高等学校等での学習を通して、次のような能力・意欲を身につけている人を受入れます。
①一般選抜では、数学、理科および英語の高い基礎学力を有する。学校推薦型選抜・特別入学試験では、高等学校教育の内容を堅実に修得し、数学、理科および英語の基礎学力を有する。
②数学、理科および英語の基礎学力を活用して、自ら問題を発見しその解決に向けて探求し、成果等を表現するための基本となる思考力・判断力・表現力等を有する。
③電気電子工学科が重視する理工系の科学・技術に興味を持ち、主体性を持って多様な人々と協力して、理工系の科学・技術を用いて社会貢献する意欲を有する。

【理工学部 化学・物質学科】
化学・物質学科の卒業認定に関する方針を理解し、高等学校等での学習を通して、次のような資質・能力を身につけている人を受け入れます。
①一般選抜では、数学、理科および英語の高い基礎学力を有する。学校推薦型選抜・特別入学試験では、高等学校教育の内容を堅実に修得し、数学、理科および英語の基礎学力を有する。
②数学、理科および英語の基礎学力を活用して、自ら問題を発見しその解決に向けて探究し、成果等を表現するための基本となる思考力・判断力・表現力等を有する。
③化学・物質学科が重視する理工系の科学・技術に興味を持ち、主体性を持って多様な人々と協力して、理工系の科学・技術を用いて社会貢献する意欲を有する。

【理工学部 材料機能工学科】
材料機能工学科の卒業認定に関する方針を理解し、高等学校等での学習を通して、次のような資質・能力を身につけている人を受入れます。
①一般選抜では、高等学校における数学、理科および英語の基本事項を修得している。学校推薦型選抜・特別入学試験では、高等学校教育の内容を堅実に修得し、数学、理科および英語の基礎学力を修得している。
②数学、理科および英語の基礎学力を活用して、自ら問題を発見しその解決に向けて探究し、成果等を表現するための基本となる思考力・判断力・表現力等を有する。
③本学科の重視する材料に関する科学・技術に興味をもち、主体的に多様な人々と協力し、社会に貢献する意欲を有する。

【理工学部 応用化学科】
応用化学科は、本学科の卒業認定・学位授与の方針を理解し、高等学校等での学習を通して、次のような資質・能力を身につけている人を受入れます。
①一般選抜では、数学、理科および英語の高い基礎学力を有する。学校推薦型選抜・特別入学試験では、高等学校教育の内容を堅実に修得し、数学、理科および英語の基礎学力を有する。
②数学、理科および英語の基礎学力を活用して、自ら問題を発見しその解決に向けて探究し、成果等を表現するための基本となる思考力・判断力・表現力等を有する。
③科学一般、特に化学物質や化学現象に対して興味があり、主体性を持って多様な人々

と協力し、理工系の科学・技術を用いて社会貢献する意欲を有する。

【理工学部 機械工学科】
機械工学科は、本学科の卒業認定・学位授与の方針を理解し、高等学校等における学習を通して、次のような資質・能力を身につけている人を受入れます。
①一般選抜では、数学、理科および英語の高い基礎学力を有する。学校推薦型選抜・特別入学試験では、高等学校教育の内容を堅実に修得し、数学、理科および英語の基礎学力を有する。
②数学、理科および英語の基礎学力を活用して、自ら問題を発見しその解決に向けて探究し、成果等を表現するための基本となる思考力・判断力・表現力等を有する。
③機械工学分野を中心とする科学・技術に興味をもった上で自主性と粘り強く学ぶ意思があり、主体性を持って多様な人々と協力して、機械工学分野の科学・技術を用いて社会貢献する意欲を有する。

【理工学部 交通機械工学科】
交通機械工学科は、卒業認定・学位授与の方針を理解し、高等学校等での学習を通して、次のような能力・意欲を身につけている人を受入れます。
①一般選抜: 数学、理科および英語の高い基礎学力を有する。学校推薦型選抜・特別入学試験: 高等学校教育の内容を堅実に修得し、数学、理科および英語の基礎学力を有する。
②数学、理科および英語の基礎学力を活用して、機械工学と交通機械工学に関して、自ら問題を発見しその解決に向けて探究し、成果等を表現するための基本となる思考力・判断力・表現力等を有する。
③機械工学と交通機械工学に関する科学・技術に興味をもち、主体性を持って多様な人々と協力して、理工系の科学・技術を用いて社会貢献する意欲を有する。

【理工学部 メカトロニクス工学科】
メカトロニクス工学科は、人材養成目的、学位授与方針および教育課程編成方針に沿った教育・研究を行うことにより、メカトロニクス技術者の養成を目指しています。入学者は本学科の人材養成目的等をよく理解し、自ら勉学・研究に真摯に取り組む学生であることが求められています。このことから、本学科のアドミッションポリシーを以下のように定め、入学者選抜の基本とします。
①一般選抜では、数学、理科および英語の高い基礎学力を有する人。学校推薦型選抜・特別入学試験では、高等学校教育の内容を堅実に修得し、数学、理科および英語の基礎学力を有する人。
②数学、理科および英語の基礎学力を活用して、自ら問題を発見しその解決に向けて探究し、成果等を表現するための基本となる思考力・判断力・表現力等を有する人。
③科学技術者としての夢を持ち、またその実現に向けて主体的に努力できて、多様な人々と協力して、理工系の科学・技術を用いて社会貢献しようとする意欲を有する人。

【理工学部 社会基盤デザイン工学科】
学科の卒業認定・学位授与の方針を理解し、高等学校等での学習を通して、次のような能力・意欲を身につけている人を受入れます。
①一般選抜では、数学、理科および英語の高い基礎学力を有する。学校推薦型選抜・特別入学試験では、高等学校教育の内容を堅実に修得し、数学、理科および英語の基礎学力を有する。
②これまでに学んだ知識・技能を活用して、自ら問題を発見し、その解決に向けて探究し、成果としてとりまとめることができる思考力・判断力・表現力等を有する。

③社会基盤に関連する科学・技術に興味をもち、主体性を持って多様な人々と協力して、入学後に学ぶ専門の知識・能力を活かして社会貢献する意欲を有する。

【理工学部 環境創造工学科】
環境創造工学科は、高等学校等における学習を通して、次のような資質・能力を身につけている人を受入れます。
①大学での学修の基礎となる高等学校における各教科の基本事項を修得している。
②環境のゼネラリストあるいはスペシャリストとして、学科での学修成果を社会で活かすという目的意識がある。
③大学在学中だけでなく、大学院への進学や国家資格の取得等卒業後も学び続ける意欲がある。

【理工学部 建築学科】
建築学科の卒業認定・学位授与の方針を理解し、高等学校等での学習を通して、次のような能力・意欲を身につけている人を受入れます。
①大学での学修の基礎となる高等学校教育の内容を堅実に修得し、建築学の専門分野を学ぶために必要な数学、理科および英語の高い基礎学力を有する。
②数学、理科および英語の基礎学力を活用して、自ら問題を発見しその解決に向けて探究し、成果等を表現するための基本となる思考力・判断力・表現力等を有する。
③建築学科が重視する居住性・安全性・審美性・環境調和性を重視した空間創造に興味を持ち、主体性を持って多様な人々と協力して、建築技術者として社会貢献する意欲を有する。

（入試に係る取組・改善状況）
在学生の成績分布状況や、実務経験のある教員等による授業科目のシラバスを本学ウェブサイトに掲載することを通じて、本学の教育内容を受験生に広く公表し、受験校選択の一助としている。

学部等名　農学部
教育研究上の目的（公表方法：https://www.meijo-u.ac.jp/academics/agriculture/）
（概要） 農学部は、生命科学、食料・健康科学、環境科学を基盤とした幅広い専門的学識を有し、洞察力、創造力および実践力を備え、社会に貢献できる人材の養成を目的とします。
卒業又は修了の認定に関する方針 （公表方法：https://www.meijo-u.ac.jp/about/outline/policy.html）
（概要） 【農学部 生物資源学科】 生物資源学科は、本学の立学の精神と学部の人材養成目的「生命科学、食料・健康科学、環境科学を基盤とした幅広い専門的学識を有し、洞察力、創造力および実践力を備え、社会に貢献できる人材の養成」および学科の人材養成目的「生物資源の生産、開発および利用に関わる専門知識と技術をもとに、広い視野と論理的な思考により、農と食の分野において地域から国内外に至る社会の持続的な発展に貢献できる、人間性豊かな人材の養成」に基づき、次の資質・能力を身に付け、卒業に必要な 124 単位以上を修得した学生に対して、学士（農学）の学位を授与します。 ①高い教養、言語力、コミュニケーション力、プレゼンテーション力、生き物・自然に対する敬愛の念、高い倫理観および豊かな人間性を身に付けている。 ②生物資源学（栽培植物生産学、分子生物情報・育種学、生物保護学、経営・経済学）に関する高度で幅広い専門的学識と基本的な解析技術を修得し、社会の持続的な発

展の方向性について思考する能力を身につけ、農と食に係わる科学的背景を深く理解した上で、農業技術やバイオテクノロジーの効果や影響を多面的に捉えつつ社会に貢献できる。
③栽培植物生産学、分子生物情報・育種学、生物保護学、経営・経済学の分野における課題探求能力および問題解決能力を有し、生涯にわたって主体的、自立的に学びを継続しながら、農業・食品・バイオ関連産業、農業関連行政、教育などの分野において人と連携しながら共に成長することができる。

【農学部 応用生物化学科】
応用生物化学科は、本学の立学の精神と学部の人材養成目的「生命科学、食料・健康科学、環境科学を基盤とした幅広い専門的学識を有し、洞察力、創造力および実践力を備え、社会に貢献できる人材の養成」および学科の人材養成目的「化学を基盤とした生命現象・食品機能・生物制御機構の解明と応用に関する専門知識、論理的思考力、実践力、倫理観を有し、バイオテクノロジー・食品・医薬品・化粧品・健康・医療関連産業、教育、行政などの分野において国内外で広く活躍できる専門家や指導者の養成」に基づき、以下の資質・能力を身に付け、所定の期間在学して卒業に必要な 124 単位以上を修得した学生に対して、学士（農学）の学位を授与します。
①高い教養、言語力、コミュニケーション力、プレゼンテーション力、生き物・自然に対する敬愛の念、高い倫理観および豊かな人間性を身に付けている。
②応用生物化学（生命科学、食品科学、分子化学、生物制御科学）と科学リテラシーに関する高度な専門的学識、論理的思考力、研究デザイン能力、解析技術、研究遂行能力、情報技術および情報発信能力を有し、生命現象や自然環境を分子レベルで正しく理解することによって健康長寿社会や環境調和型社会の実現に貢献することができる。
③生命科学、食品科学、分子化学、生物制御科学分野における課題探求能力および問題解決能力を修得し、人生における学問の重要性を理解して生涯にわたって主体的に学び、様々な分野で中心的、協調的、独創的に活躍できる応用力や適応力を身に付けている。

【農学部 生物環境科学科】
生物環境科学科は、本学の立学の精神と学部の人材養成目的「生命科学、食料・健康科学、環境科学を基盤とした幅広い専門的学識を有し、洞察力、創造力および実践力を備え、社会に貢献できる人材の養成」および学科の人材養成目的「生物をとりまく環境問題を地球規模で捉え、生物と人と自然が調和した持続可能な社会の実現に貢献できる人材の養成」に基づき、卒業に必要な 124 単位以上を修得し、以下の能力を備えた学生に対して、学士（農学）の学位を授与します。
①高い教養、言語力、コミュニケーション力、プレゼンテーション力、生き物・自然に対する敬愛の念、高い倫理観および豊かな人間性を身に付けている。
②生物環境科学（生物保全学・物質動態学・生物機能科学・緑地創造学）に関する幅広い専門的学識と基本的な解析能力を修得し、生物と人と自然との調和がとれた環境の創出について創造的な能力を身に付けている。
③生物保全学・物質動態学・生物機能科学・緑地創造学における課題探求と問題解決の能力を修得し、生涯にわたり生物多様性や環境の保全問題の解決に主体的に学び、各分野で活躍できる能力を身に付けている。

教育課程の編成及び実施に関する方針
（公表方法：https://www.meijo-u.ac.jp/about/outline/policy.html）

（概要）

【農学部 生物資源学科】

生物資源学科は、学科の人材養成目的を達成し、学位授与方針に示す資質・能力を身に付けさせるため、教養教育部門と専門教育部門からなる教育課程を編成しています。それぞれの部門において一定数以上の単位数を修得することを義務付け、 高い教養と幅広い基礎知識を基盤として、様々な分野で活躍できる能力を身に付けさせることを目標としています。

①教養教育部門は、基軸科目、人文社会科目、自然科学科目、言語コミュニケーション科目、情報技術科目、健康とスポーツ科目、キャリア教育科目から編成され、高い教養、言語力、コミュニケーション力、プレゼンテーション力、生き物・自然に対する敬愛の念、高い倫理観および豊かな人間性を身に付けさせる。

②専門教育部門は、基礎教育科目群と専門教育科目群から編成され、基礎から応用へ段階的に学修できるように各科目が体系的に配置されている。また、講義による理論・知識の教授だけでなく、実験・実習・演習を通して自ら学ぶ力を養成する。すべての科目において、学生と教員による双方向型授業を充実させ、自発的な学修態度を身に付けさせる。

③学科専門教育の集大成として、3 年次に学生を研究室に配属し、4 年次において担当教員による指導の下で卒業研究を行わせる。卒業研究は各学生が研究テーマを選択することにより個性を尊重する教育の場ともなっている。また、実際に卒業研究を遂行するにあたって教員や他の学生との議論を通して、様々な情報を基に研究計画を立案させる。さらに実験・解析を行わせ、得られた研究成果を取りまとめて学年末に卒業研究発表会において発表させる。これら一連の作業により課題探求能力、問題解決能力、実践力、表現力、倫理観および協調性を身に付けさせる。

④本方針を有効に機能させ、学びの質を向上・深化させるために、各学年の履修登録単位数に上限を設け、3・4 年次への進級基準単位数も設定している。また、開講科目については、シラバスにより授業計画、学修到達目標、成績評価基準などを公表している。さらに、学位授与方針に対応したポートフォリオや学修結果を各学生に作成・分析させ自学自修に活用させるだけでなく、国際的な成績評価制度（GPA）を導入して指導教員による学修指導に利用している。

【農学部 応用生物化学科】

応用生物化学科は、学科の人材養成目的を達成し、学位授与方針に示す資質・能力を身に付けさせるため、教養教育部門と専門教育部門からなる教育課程を編成しています。それぞれの部門において一定数以上の単位を修得することを義務付け、高い教養と幅広い基礎知識を基盤として、様々な分野で活躍できる能力を身に付けさせることを目標としています。

①教養教育部門は、基軸科目、人文社会科目、自然科学科目、言語コミュニケーション科目、情報技術科目、健康とスポーツ科目、キャリア教育科目から編成され、高い教養、言語力、コミュニケーション力、プレゼンテーション力、生き物・自然に対する敬愛の念、高い倫理観および豊かな人間性を身に付けさせる。

②専門教育部門は、基礎教育科目群と専門教育科目群から編成され、基礎から応用へ段階的に学修できるように各科目が体系的に配置されている。また、講義による理論・知識の教授だけでなく、実験・実習・演習を通して自ら学ぶ力を養成する。すべての科目において、学生と教員による双方向型授業を充実させ、自発的な学修態度を身に付けさせる。

③学科専門教育の集大成として、3 年次に学生を研究室に配属し、4 年次において担当教員による指導の下で卒業研究を行わせる。卒業研究は各学生が研究テーマを選択することにより個性を尊重する教育の場ともなっている。また、実際に卒業研究を遂行するにあたって教員や他の学生との議論を通して、様々な情報を基に研究計画

を立案させる。さらに実験・解析を行わせ、得られた研究成果を取りまとめて学年末に卒業研究発表会において発表させる。これら一連の作業により課題探求能力、問題解決能力、実践力、表現力、倫理観および協調性を身に付けさせる。
④本方針を有効に機能させ、学びの質を向上・深化させるために、各学年の履修登録単位数に上限を設け、3・4年次への進級基準単位数も設定している。また、開講科目については、シラバスにより授業計画、学習到達目標、成績評価基準などを公表している。さらに、学位授与方針に対応したポートフォリオや学修結果を各学生に作成・分析させ自学自修に活用させるだけでなく、国際的な成績評価制度（GPA）を導入して指導教員による学修指導に利用している。

【農学部 生物環境科学科】
生物環境科学科は、学科の人材養成目的を達成し、学位授与方針に示す資質・能力を身に付けさせるため、教養教育部門と専門教育部門からなる教育課程を編成しています。それぞれの部門において一定数以上の単位を修得することを義務付け、 高い教養と幅広い基礎知識を基盤として、様々な分野で活躍できる能力を身に付けさせることを目標としています。
①教養教育部門は、基軸科目、人文社会科目、自然科学科目、言語コミュニケーション科目、情報技術科目、健康とスポーツ科目、キャリア教育科目から編成され、高い教養、言語力、コミュニケーション力、プレゼンテーション力、生き物・自然に対する敬愛の念、高い倫理観および豊かな人間性を身に付けさせる。
②専門教育部門は、基礎教育科目群と専門教育科目群から編成され、基礎から応用へ段階的に学修できるように各科目が体系的に配置されている。また、講義による理論・知識の教授だけでなく、実験・実習・演習を通して自ら学ぶ力を養成する。すべての科目において、学生と教員による双方向型授業を充実させ、自発的な学修態度を身に付けさせる。
③学科専門教育の集大成として、3年次に学生を研究室に配属し、4年次において担当教員による指導の下で卒業研究を行わせる。卒業研究は各学生が研究テーマを選択することにより個性を尊重する教育の場ともなっている。また、実際に卒業研究を遂行するにあたって教員や他の学生との議論を通して、様々な情報を基に研究計画を立案させる。さらに実験・解析を行わせ、得られた研究成果を取りまとめて学年末に卒業研究発表会において発表させる。これら一連の作業により課題探求能力、問題解決能力、実践力、表現力、倫理観および協調性を身に付けさせる。
④本方針を有効に機能させ、学びの質を向上・深化させるために、各学年の履修登録単位数に上限を設け、3・4年次への進級基準単位数も設定している。また、開講科目については、シラバスにより授業計画、学習到達目標、成績評価基準などを公表している。さらに、学位授与方針に対応したポートフォリオや学修結果を各学生に作成・分析させ自学自修に活用させるだけでなく、国際的な成績評価制度（GPA）を導入して指導教員による学修指導に利用している。

入学者の受入れに関する方針
（公表方法：https://www.meijo-u.ac.jp/about/outline/policy.html）

（概要）
【農学部 生物資源学科】
生物資源学科は、学科の人材養成目的を理解し、高等学校などにおける学習を通して、次の能力・態度を身に付けている人を受け入れます。
①学科での学修の基盤となる生物、化学、物理、数学、国語、英語などに関する基礎知識と応用力を身に付けている。
②農産物の生産・利用技術、データサイエンスを用いた植物バイオテクノロジー、多様な生物資源の生理機能とその相互作用、作物生産における病害虫防除、食・農業・農村が直面する社会経済問題に関する学問を学ぶことに強い関心と意欲を持ってい

る。
③課題探求活動に積極的に取り組み、主体的、継続的、協調的に学修する力を身に付け、生涯にわたり学び続ける意欲を持っている。

【農学部 応用生物化学科】
応用生物化学科は、学科の人材養成目的を理解し、高等学校などにおける学習を通して、次の能力・態度を身に付けている人を受け入れます。
①学科での学修の基盤となる化学、生物、物理、数学、国語、英語などに関する基礎知識と応用力を身に付けている。
②遺伝子工学やバイオテクノロジー、食品の安全・安心と美味しさ、食と健康、有用な生物活性物質の探索・合成・活性発現の分子機構、生体・食品関連物質の物性解析や物性評価法の開発などに関する学問を学ぶことに強い関心や意欲を持っている。
③課題探求活動に積極的に取り組み、主体的、継続的、協調的に学修する力を身に付け、生涯にわたり学び続ける意欲を持っている。

【農学部 生物環境科学科】
生物環境科学科は、学科の人材養成目的を理解し、高等学校などにおける学習を通して、次の能力・態度を身に付けている人を受け入れます。
①学科での学修の基盤となる生物、化学、物理、数学、国語、英語などに関する基礎知識と応用力を身に付けている。
②生物保全学・物質動態学・生物機能科学・緑地創造学などに関する学問を学ぶことに強い関心や意欲を持っている。
③課題探求活動に積極的に取り組み、主体的、継続的、協調的に学修する力を身に付け、生涯にわたり学び続ける意欲を持っている。

（入試に係る取組・改善状況）
在学生の成績分布状況や、実務経験のある教員等による授業科目のシラバスを本学ウェブサイトに掲載することを通じて、本学の教育内容を受験生に広く公表し、受験校選択の一助としている。

学部等名　薬学部
教育研究上の目的（公表方法：https://www.meijo-u.ac.jp/academics/pharmacy/）
（概要） 薬学部は、薬学の確かな知識、技能とともに、生命の尊さを知り、豊かな人間性と倫理観をもち、人々の健康と福祉の向上に貢献できる人材の養成を目的とします。
卒業又は修了の認定に関する方針 （公表方法：https://www.meijo-u.ac.jp/about/outline/policy.html）
（概要） 【薬学部 薬学科】 薬学科は、本学立学の精神と、本学科人材養成目的「薬学の確かな知識、技能とともに、生命の尊さを知り、豊かな人間性と倫理観をもち、人々の健康と福祉の向上に貢献できる人材の養成」に基づき、次の資質・能力を身につけた学生に学士（薬学）の学位を授与します。 ①医療人として幅広い教養とコミュニケーション力を身につけ、生命の尊厳について深い認識を持ち、薬剤師としての社会的責任と使命を自覚して、広い視野に立って物事の公正な判断ができる。 ②薬剤師に求められる幅広い薬学の知識と技能を修得し、健康・医療における諸問題の解決のために活用し、社会に貢献できる。

③高度な専門知識と臨床技能を有する薬剤師として他の医療職と協力して患者中心の医療を実践し、「くすりのプロフェッショナル」として医療の質の向上に貢献できる。
④医療人としての論理的思考力と科学的視点を有し、探究心と創造力を育み、薬学および生命科学研究を推進することができる。
⑤医療の変化に対応し、社会に貢献するために、生涯にわたって主体的に学び続け、学んだことを自ら振り返ると共に、薬剤師の新しい職能の開拓、後進の育成に貢献できる。

教育課程の編成及び実施に関する方針
（公表方法：https://www.meijo-u.ac.jp/about/outline/policy.html）

（概要）
【薬学部 薬学科】
薬学科は、本学科人材養成目的「薬学の確かな知識、技能とともに、生命の尊さを知り、豊かな人間性と倫理観をもち、人々の健康と福祉の向上に貢献できる人材の養成」に基づいた学位授与方針に示す資質・能力を身につけさせるため、次のような教育課程を編成し、実施します。
①幅広い教養とコミュニケーション能力を醸成するため、人文・社会・自然科学からなる教養教育課程を体系的に編成する。医療人の資質の基礎となるプロフェッショナリズムを醸成するために、体験やディスカッションを含めた多様な学修形態を用いた学修を６年に渡って継続して実施することにより、広い視野に立って医療の目的と薬剤師としての社会的使命を理解し実践できるようにする。
②科学として薬学を理解するための基礎科目、医薬品の創生と適正使用につながる知識と技能を修得するための専門科目を順次性をもって編成し、実施することにより、人々の健康の増進と医療の発展を通して社会に貢献できるようにする。
③薬剤師としての職能を高め、患者中心の医療を実践する知識と技能を修得するために、統合型科目を含む多様な臨床薬学科目を編成し、医療の質の向上に貢献できるようにする。
④能動的学習を取り入れた初年次教育や演習・実習・薬学卒業研究を通して、論理的思考力や創造力を培うとともに、生涯にわたって主体的に研鑽を続け、他者との相互理解や後進を育成する意欲と態度を保つことができるようにする。
⑤多面的かつ適切な評価方法により学修成果に対する厳格な成績評価と単位認定を行うとともに、学修行動調査、GPA、修得単位数にもとづく個別指導を行うことにより、個々の達成度と将来計画に応じた学修を進めることができるようにする。

入学者の受入れに関する方針
（公表方法：https://www.meijo-u.ac.jp/about/outline/policy.html）

（概要）
【薬学部 薬学科】
薬学科は、学科の教育目標・人材養成目的を理解し、高等学校等における学習を通して、次のような資質・能力を身につけている人を受け入れます。
①薬学部薬学科における広範かつ専門的な学問領域に対応できる高い基礎学力を高等学校等で修得している。
②薬学部薬学科各教科の学修成果を薬学領域の発展に尽くす目的意識を持っている。
③生涯にわたる学修姿勢と論理的思考を有し、新しい課題・問題に対応できる創造性や行動力を持って主体的に社会に貢献する意志がある。
④豊かな人間性と協調性を有し、国際性とコミュニケーション能力を培い、将来医療人として活躍する意欲がある。

（入試に係る取組・改善状況）
在学生の成績分布状況や、実務経験のある教員等による授業科目のシラバスを本学ウ

ェブサイトに掲載することを通じて、本学の教育内容を受験生に広く公表し、受験校選択の一助としている。

学部等名　都市情報学部

教育研究上の目的（公表方法：https://www.meijo-u.ac.jp/academics/urban/）

（概要）
都市情報学部は、サービスサイエンスの観点から、都市に関する総合的知識とバランス感覚を併せ持ち、まちづくりや組織経営に関する様々な課題を分析し、解決する人材の養成を目的とします。

卒業又は修了の認定に関する方針
（公表方法：https://www.meijo-u.ac.jp/about/outline/policy.html）

（概要）
【都市情報学部 都市情報学科】
都市情報学科は、本学の立学の精神と、本学科人材養成目的「サービスサイエンスの観点から、都市に関する総合的知識とバランス感覚を併せ持ち、まちづくりや組織経営に関するさまざまな課題を分析し、解決する人材の養成」に基づき、次の資質・能力を身につけた学生に学士（都市情報学）の学位を授与します。
①幅広い教養と語学力を身につけ、人間・文化・社会・自然・環境・情報・健康などの視点から社会の諸課題に取り組み、広い視野に立って物事の公正な判断をすることができる。
②サービスサイエンスの観点から、まちづくりや組織経営に関するさまざまな課題を分析し、解決するためにアナライジング（情報を収集・整理・分析すること）、プランニング（計画を立案・設計すること）、プレゼンテーション（成果を発表すること）の知識・能力を修得している。
③都市に関する総合的知識を主体的に学び続け、バランス感覚を養いつつ、学んだことを分かち合い、共に成長することができる。

教育課程の編成及び実施に関する方針
（公表方法：https://www.meijo-u.ac.jp/about/outline/policy.html）

（概要）
【都市情報学部 都市情報学科】
都市情報学科は、本学科の教育目標を達成し、学位授与方針に示す資質・能力を身につけさせるため、教養教育部門、専門基礎部門、専門部門より構成される教育課程を編成し、実施します。いずれの科目群においても一定以上の単位数の修得が義務付けられ、都市情報学の枠を超えた深い知識・理解を身につけるために、幅広い学修を求めています。
①教養教育部門は、「人間と文化」、「人間と社会」、「自然と環境」、「言語コミュニケーション」、「情報技」、「健康とスポーツ科学」、「教養演習」の７科目群から構成され、これらの科目を幅広く履修することにより、さまざまな価値観に触れ、バランス感覚を養い、物事を正しく理解し表現できるようにする。
②専門教育課程は、専門基礎部門と専門部門より構成され、体系性と順次性を踏まえて科目が開講されている。専門基礎部門は、都市や情報・数理に関連する科目を学び専門科目の基礎知識と基本的技能を修得する部門である。専門部門はさらに「経済・経営」、「財政・行政」、「地域計画」、「開発・環境」、「情報・数理」、およびゼミナールを始めとする「総合科目」の科目群に分けられ、これらの部門内の専門科目を系統的に履修することにより、アナライジング、プランニング、プレゼンテーションの知識と技能を身につけ、まちづくりや組織経営に関するさまざまな課題の分析と解決に活かすことができるようにする。
③都市情報学科の教育上の特徴として、3・4年次の2年間にわたる必修科目として、

少人数教育の場であるゼミナールを設置している。この能動的学修の場を通して、主体的にかつ持続的に探究心を育むことができ、他者との意見交換や相互理解に努めることの重要性を認識できるようにする。 ④学修成果に対する厳格な成績評価と単位認定を行うとともに、クラス担任教員（1・2 年次の学生を対象）やゼミナール担当教員（3・4 年次の学生を対象）が、学修行動調査や GPA、修得単位数にもとづいた個別指導を行うことにより、個々の達成度と将来計画に応じた学修を進めることができるようにする。ゼミナールにおける発表会の実施や優秀卒業論文の表彰による評価を通じて、主体的に学ぶ姿勢やプレゼンテーション能力を身につけることができるようにする。
入学者の受入れに関する方針 （公表方法：https://www.meijo-u.ac.jp/about/outline/policy.html）
（概要） 【都市情報学部 都市情報学科】 都市情報学科は、本学科の教育理念・教育目標を理解し、高等学校等における学習を通して、次のような能力・態度を身につけている人を受入れます。 ①高校までの学習による基礎学力を身につけている。 ②本学科での学修成果をよりよい人間活動の場の創造に向けて活かすという目的意識がある。 ③大学在学中だけでなく、卒業後も社会の中で身の周りに起こる任意の事象に対して問題意識をもち、問題解決のために論理的に思考し粘り強く取り組み続ける意欲がある。 （入試に係る取組・改善状況） 在学生の成績分布状況や、実務経験のある教員等による授業科目のシラバスを本学ウェブサイトに掲載することを通じて、本学の教育内容を受験生に広く公表し、受験校選択の一助としている。

学部等名　人間学部
教育研究上の目的（公表方法：https://www.meijo-u.ac.jp/academics/human/）
（概要） 人間学部は、人間性への洞察を中核にすえた広い視野と深い教養を持ち、豊かな人間性に裏打ちされ、国際的な舞台でも活躍できるコミュニケーション能力と行動力を備えた人材の養成を目的とします。
卒業又は修了の認定に関する方針 （公表方法：https://www.meijo-u.ac.jp/about/outline/policy.html）
（概要） 【人間学部 人間学科】 人間学科は、本学立学の精神と、本学科人材養成目的「人間性への洞察を中核にすえた広い視野と深い教養を持ち、豊かな人間性に裏打ちされ、国際的な舞台でも活躍できるコミュニケーション能力と行動力を備えた人材の養成」に基づき、次の資質・能力を身につけた学生に学士（人間学）の学位を授与します。 ①自然、社会、人間についての幅広い知識とコミュニケーション能力を身につけ、偏りのない観点から諸問題をとらえることができる。 ②世界の文化の多様性、人間の心の働き、社会のあり方の諸側面を理解し、身につけた語学力・コミュニケーション力を活かして、人間がかかわるグローバルな諸課題の解決に向け働きかけることができる。 ③生涯にわたって人間をめぐる諸問題を探究し続け、さまざまな人と共に成長することができる。

教育課程の編成及び実施に関する方針 （公表方法：https://www.meijo-u.ac.jp/about/outline/policy.html）
（概要） 【人間学部 人間学科】 人間学科は、その教育目標を達成し学位授与方針に示す資質・能力を身につけさせるために、教養教育部門と専門教育部門から構成される教育課程を編成し、いずれの部門においても幅広い学修を求め、一定以上の単位数の修得を義務づけます。 ①教養教育部門は、「基軸科目」「人間と文化」「人間と社会」「自然と環境」「言語コミュニケーション」「情報技術」「健康とスポーツ科学」「教養演習」「キャリア・デザイン」の９つの科目群から構成される。これらの科目の履修によって、知識の修得を導き、コミュニケーション能力、情報処理能力、論理的思考力などの基本的技能を養う。 ②専門教育部門は心理系、社会・教育系、国際・コミュニケーション系の学修を深める部門であり、これに「基礎科目」、経験を通じて学ぶ「体験科目」、演習形式の「ゼミナール」を加えた６部門から構成される。順次性、体系性、汎用性を踏まえて開講される専門科目の系統的履修により、人間と現代社会を多面的に分析し、諸問題を解決する能力を養う。 ③人間学科の教育の特徴として、必修としている初年次の「基礎ゼミナール」、２年次の「講読ゼミナール」、３年次の「展開ゼミナール」、４年次の「卒業研究ゼミナールⅠ・Ⅱ」、およびフィールドワーク、ボランティア、インターンシップなどの体験科目では少人数教育を実施し、能動的学修を促す。少人数での交流や議論を通して、自他の立脚する立場を理解し、互恵的意思疎通をしながら探究し続ける能力を育む。 ④人間学科の学修成果評価基準に基づき、講義、演習など授業の形式にかなった厳格な成績評価と単位認定を行う。また、学修行動調査、および GPA や単位修得状況によって学生の概況を把握し、これをもとにゼミ担当教員や学務担当教員が個別指導を定期的に行い、その結果も教授団が共有する。これらにより学生の現在の達成度と将来計画に応じた学修を学科全体で支援する。
入学者の受入れに関する方針 （公表方法：https://www.meijo-u.ac.jp/about/outline/policy.html）
（概要） 【人間学部 人間学科】 人間学科は、本学科の教育理念・教育目標を理解し、高等学校等における学習を通して、次のような資質・能力を身につけている人を受入れます。 ①高等学校までの各教科の学習によって、幅広い教養の基礎となる基本事項を身につけている。 ②本学科での社会・教育系、国際・コミュニケーション系、心理系の学修成果を人との交流や現代社会の課題の解決に活かしたいと願っている。 ③多様な価値観に対する興味、および人間や社会についての広い視野を持ち続け、生涯にわたって学びを楽しもうとする熱意がある。 （入試に係る取組・改善状況） 在学生の成績分布状況や、実務経験のある教員等による授業科目のシラバスを本学ウェブサイトに掲載することを通じて、本学の教育内容を受験生に広く公表し、受験校選択の一助としている。

学部等名　外国語学部
教育研究上の目的（公表方法：https://www.meijo-u.ac.jp/academics/foreign/）
（概要） 外国語学部は、国際化の推進を理念とし、グローバリゼーションが深化する世界に

おいて求められる実践的なコミュニケーション力を有し、国境を越えて活躍できる、以下に掲げる能力を備えた人材の養成を目的とする。
①グローバル化社会の最前線で活躍できる英語の運用能力を有した人材
②アジアをはじめとする海外の事情に通じ、異文化や国際社会に対して深い理解力を持った人材
③日本の歴史、文化、社会を深く理解し、日本の立場や事情を世界に発信する能力を備え、グローバル化社会を切り開いて行くことができる人材

卒業又は修了の認定に関する方針
（公表方法：https://www.meijo-u.ac.jp/about/outline/policy.html）

（概要）
【外国語学部 国際英語学科】
国際英語学科は、本学の立学の精神と、本学部人材養成目的「国際化の推進を理念とし、グローバリゼーションが深化する世界において求められる実践的なコミュニケーション力を有し、国境を越えて活躍できる、以下に掲げる能力を備えた人材の養成を目的とする。
1. グローバル化社会の最前線で活躍できる英語の運用能力を有した人材
2. アジアをはじめとする海外の事情に通じ、異文化や国際社会に対して深い理解力を持った人材
3. 日本の歴史、文化、社会を深く理解し、日本の立場や事情を世界に発信する能力を備え、グローバル化社会を切り開いて行くことができる人材」に基づき、次の資質・能力を身につけた学生に学士（外国語学）の学位を授与します。
①豊かな教養および幅広い視野を持って生きることができる。
②英語を実践的に運用できる。
③海外の事情に通じ、深く異文化を理解できる。
④日本の立場や事情を積極的に情報発信できる。
⑤対話と協働により、主体的に課題を発見し取り組むことができる。

教育課程の編成及び実施に関する方針
（公表方法：https://www.meijo-u.ac.jp/about/outline/policy.html）

（概要）
【外国語学部 国際英語学科】
国際英語学科は、その教育目標を達成し、学位授与方針に示す資質・能力を身につけさせるため、教養教育部門、専門教育部門の２部門で体系的に構成された、次のような教育課程を編成し、実施します。
①教養教育部門は、基軸科目、発展科目（人間を考える、社会に生きる、自然と生きる）、情報教育科目、体育科目、キャリア教育科目で構成され、豊かな教養および幅広い視野を備えた社会の担い手として生きる力を身につけるようにする。
②専門教育課程は、外国語科目群、専門基礎科目群、専門基幹科目群、専門展開科目群に配置された以下の科目を中心に、専門分野の知識・能力を確実に修得し、問題解決のために活かすことができるようにする。
・「話す・聞く・読む・書く」の４技能をバランスよく備え、グローバル化社会で活躍するために必要な英語力を身につけるための科目
・グローバル化社会を多面的に理解する力を養うための第二外国語科目
・言語の仕組みやその背景にある文化、思考法などについて幅広い知識の修得や理解を深めるための科目
・アジアをはじめとする海外の事情、異文化、国際社会への理解や関心を深めるための科目
・日本の歴史、文化、社会などを世界に説明し、情報発信できる力を養うための科目
・コミュニケーション力を育成するための科目
③専門教育課程は、ゼミナール科目群に配置された以下の科目を中心に、能動的学修

の要素を取り入れることにより、生涯にわたって主体的に学び、他者との相互理解や意見交換ができるようにする。 ・対話と協働により、自ら課題を見出し解決する実践力を養うための科目 ・主体的な学習習慣、研究を深めることによる優れた洞察力および分析力を身につけるための科目 ④学修成果に対する厳格な成績評価と単位認定を行うとともに、学修行動調査やGPA、修得単位数にもとづく個別指導を行うことにより、個々の達成度と将来計画に応じた学修を進めることができるようにする。
入学者の受入れに関する方針 （公表方法：https://www.meijo-u.ac.jp/about/outline/policy.html）
（概要） 【外国語学部 国際英語学科】 国際英語学科は、次のような資質・能力を身につけている人を受入れます。 ①高校までの学習による基礎学力を身につけている。 ②コミュニケーションを通じて自ら進んで国際社会の課題に実践的に取り組みたいと思っている。 ③グローバル化時代において、英語を駆使して活躍したいと思っている。 ④世界に向けて日本のことを積極的に情報発信したいと思っている。 ⑤向上心やチャレンジ精神が旺盛で、高い志と強固な意思を持って生涯にわたり勉学に取り組む意欲がある。 （入試に係る取組・改善状況） 在学生の成績分布状況や、実務経験のある教員等による授業科目のシラバスを本学ウェブサイトに掲載することを通じて、本学の教育内容を受験生に広く公表し、受験校選択の一助としている。

学部等名　情報工学部
教育研究上の目的 （公表方法：https://www.meijo-u.ac.jp/academics/info_eng/）
（概要） 情報工学部は、幅広い素養を備え、社会に通用する情報工学の専門知識とその応用力を持ち、情報技術者として自らの手で新しい分野を創造的に切り拓いてゆく人材の養成を目的とします。
卒業又は修了の認定に関する方針 （公表方法：https://www.meijo-u.ac.jp/about/outline/policy.html）
（概要） 【情報工学部 情報工学科】 情報工学科は、本学立学の精神と情報工学部および本学科人材養成目的に基づき、以下の要件を満たす学生に対して卒業を認定し、学士（工学）の学位を授与します。 ①幅広い教養と語学力を身につけ、それに裏打ちされた広い視野と高い倫理観をもって、社会の発展に貢献する意志と能力を有する。 ②情報工学の基礎となる知識を修得し、それを活用して種々の問題を解決する能力を有する。多様で幅広い情報技術のうち、ネットワークシステム、フィジカルコンピューティング、データエンジニアリング、ヒューマン・メディアの 4 分野の少なくとも１つに関する基礎的な知識を修得し、それを社会における諸問題の解決のために活用する能力を持つ。 ③生涯にわたり、主体的、自立的に探究する能力を身につけ、さらに、社会において課題解決に向けて協働して取り組むことのできる能力を有する。

教育課程の編成及び実施に関する方針
（公表方法：https://www.meijo-u.ac.jp/about/outline/policy.html）

（概要）
【情報工学部 情報工学科】
情報工学科は、卒業認定・学位授与の方針に示す能力を身につけさせるため、教養教育と専門教育より構成される教育課程を編成します。教養教育課程および専門教育課程のそれぞれにおいて一定数以上の単位の修得を義務付け、情報工学の枠を超えた深い知識・理解を身につけるための幅広い学修を求めます。
①教養教育は、外国語、体育科学、人文科学、社会科学等の教養科目と数学、物理学、化学、技術者倫理等の理工学基礎科目により編成される。これらの科目を学ぶことにより専門分野を超えた幅広い視野と倫理観を養うと共に、専門教育に進む上で欠くことのできない知識を養うことができるようにする。
②専門教育では、情報工学の専門知識を深めるために基礎から応用への順次性を保ちながら、科目相互を体系的に編成している。情報工学に共通する基礎的科目群と、ネットワークシステム、フィジカルコンピューティング、データエンジニアリング、ヒューマン・メディアの 4 分野に関する科目群を体系的に用意する。講義科目と、それに関連する演習・実験・実習が有機的に結びついた授業を実施することにより、机上の学修にとどめず幅広く専門知識を学び、社会の変化に自在に対応して問題解決する能力を養うことができるようにする。
③教養教育で能動的学修の要素を取り入れた教育を用意する。さらに、専門教育では動機付けの教育を行うと共に、複数の科目でそれに関連する演習・実験・実習科目を実施して、能動的学修を行うことができるようにする。最終学年の 4 年次で行う卒業研究では、主体性と他者との協力関係を養い、生涯にわたって活かすことのできる総合的学習と創造的思考力が培われるようにする。
④情報工学科では、シラバスに示した内容に基づいて厳格に成績評価して単位認定を行い、学修指導や各種順位づけに利用できるようにする。成績や学修態度を総合的に判断して個別指導する体制を整え、学生が各自の達成度と将来計画に応じた学修を進めることができるようにする。

入学者の受入れに関する方針
（公表方法：https://www.meijo-u.ac.jp/about/outline/policy.html）

（概要）
【情報工学部 情報工学科】
情報工学科の卒業認定・学位授与の方針を理解し、高等学校等での学習を通して、次のような能力・意欲を身につけている人を受入れます。
①一般選抜では、数学、理科および英語の高い基礎学力を有する。学校推薦型選抜・特別入学試験では、高等学校教育の内容を堅実に修得し、数学、理科および英語の基礎学力を有する。総合型選抜では、数学、理科および英語の基礎学力に加え、特定の分野において特筆できる経験・技能を有する。
②数学、理科および英語の基礎学力やプログラミング等の技能を活用して、自ら問題を発見しその解決に向けて探究し、成果等を表現するための基本となる思考力・判断力・表現力等を有する。
③情報工学および関連する理工系の科学・技術に興味をもち、主体性を持って多様な人々と協力して、情報技術を用いて社会貢献する意欲を有する。

（入試に係る取組・改善状況）
在学生の成績分布状況や、実務経験のある教員等による授業科目のシラバスを本学ウェブサイトに掲載することを通じて、本学の教育内容を受験生に広く公表し、受験校選択の一助としている。

②教育研究上の基本組織に関すること

公表方法：https://www.meijo-u.ac.jp/about/outline/organization.html

③教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること

a.教員数（本務者）

学部等の組織の名称	学長・副学長	教授	准教授	講師	助教	助手 その他	計
―	5 人	―					5 人
法学部	―	28 人	15 人	0 人	2 人	0 人	45 人
経営学部	―	18 人	7 人	1 人	1 人	0 人	27 人
経済学部	―	15 人	11 人	0 人	1 人	0 人	27 人
理工学部	―	102 人	50 人	0 人	7 人	0 人	159 人
農学部	―	24 人	15 人	0 人	6 人	0 人	45 人
薬学部	―	28 人	28 人	0 人	14 人	2 人	72 人
都市情報学部	―	18 人	7 人	0 人	1 人	0 人	26 人
人間学部	―	16 人	3 人	0 人	3 人	0 人	22 人
外国語学部	―	14 人	5 人	7 人	0 人	0 人	26 人
情報工学部	―	11 人	6 人	0 人	3 人	0 人	20 人
教養部	―	5 人	1 人	0 人	1 人	0 人	7 人
大学院	―	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人
その他	―	1 人	0 人	0 人	0 人	0 人	1 人

b.教員数（兼務者）

学長・副学長	学長・副学長以外の教員	計
0 人	405 人	405 人

各教員の有する学位及び業績（教員データベース等）	公表方法：https://www.meijo-u.ac.jp/about/public/school_education_law.html（「教員業績」に掲載）

c.ＦＤ（ファカルティ・ディベロップメント）の状況（任意記載事項）

（1）FD・SD フォーラム：教育の日常的取り組みの中からトピックを選び、共通テーマの下で、全学部・研究科の教員、事務職員、他大学の教職員が集い、全学的な教育改善の動きを共有する。

（2）教育功労賞：教職員の教育改善に対する意識を高め、組織の活性化を図り、本学の教育の質の向上に資することを目的に、教育活動および教育改善に大きく貢献した者を表彰する。

（3）FD 学習会：学内の教職員に対し、近年の高等教育政策の変化に伴う教育改革方策の内容を理解することに始まり、政策への対応の仕方を提起する。

（4）科目別学修振り返りアンケート（授業改善アンケート）：学生の視点から授業改善の手がかりを探り、授業改善につなげることで教育の質を向上させる。

（5）名城大学教育年報：本学における優れた教育実践やその成果を共有・蓄積し、広く教育の質の向上に資することを目的に「名城大学教育年報」を発刊している。

これらの取り組みの詳細は以下ページに掲載。

https://www.meijo-u.ac.jp/academics/education/fd/
https://www.meijo-u.ac.jp/academics/education/center/publication/annual/

④入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること

a. 入学者の数、収容定員、在学する学生の数等

学部等名	入学定員 (a)	入学者数 (b)	b/a	収容定員 (c)	在学生数 (d)	d/c	編入学定員	編入学者数
法学部	400 人	407 人	101.8%	1,600 人	1,747 人	109.2%	若干名	1 人
経営学部	310 人	320 人	103.2%	1,240 人	1,301 人	104.9%	若干名	0 人
経済学部	310 人	356 人	114.8%	1,240 人	1,361 人	109.8%	若干名	0 人
理工学部	1,035 人	1,071 人	103.5%	4,140 人	4,409 人	106.5%	若干名	1 人
農学部	330 人	335 人	101.5%	1,320 人	1,348 人	102.1%	若干名	0 人
薬学部	265 人	280 人	105.7%	1,590 人	1,680 人	105.7%	—	0 人
都市情報学部	235 人	245 人	104.3%	940 人	1,007 人	107.1%	若干名	0 人
人間学部	220 人	232 人	105.5%	880 人	960 人	109.1%	若干名	0 人
外国語学部	130 人	133 人	102.3%	520 人	565 人	108.7%	—	0 人
情報工学部	180 人	176 人	97.8%	720 人	772 人	107.2%	若干名	0 人
合計	3,415 人	3,555 人	104.1%	14,190 人	15,150 人	106.8%	若干名	2 人

（備考）

b. 卒業者数・修了者数、進学者数、就職者数

学部等名	卒業者数・修了者数	進学者数	就職者数（自営業を含む。）	その他
法学部	388 人 (100%)	8 人 (2.1%)	359 人 (92.5%)	21 人 (5.4%)
経営学部	323 人 (100%)	3 人 (0.9%)	316 人 (97.8%)	4 人 (1.2%)
経済学部	321 人 (100%)	0 人 (0%)	315 人 (98.1%)	6 人 (1.9%)
理工学部	1,025 人 (100%)	266 人 (26.0%)	745 人 (72.7%)	14 人 (1.4%)
農学部	356 人 (100%)	76 人 (21.3%)	272 人 (76.4%)	8 人 (2.2%)
薬学部	236 人 (100%)	6 人 (2.5 %)	227 人 (96.2%)	3 人 (1.3%)
都市情報学部	219 人 (100%)	2 人 (0.9%)	211 人 (96.3%)	6 人 (2.7%)
人間学部	225 人 (100%)	4 人 (1.8%)	211 人 (93.8%)	10 人 (4.4%)
外国語学部	126 人 (100%)	1 人 (0.8%)	120 人 (95.2%)	5 人 (4.0%)
情報工学部	127 人 (100%)	50 人 (39.4%)	76 人 (59.8%)	1 人 (0.8%)
合計	3,346 人 (100%)	416 人 (12.4%)	2,852 人 (85.2%)	78 人 (2.3%)

（主な進学先・就職先）（任意記載事項）
進学先、及び主な就職先（学部別）は以下のページに掲載。
【進学先】https://www.meijo-u.ac.jp/career/results/gs.html
【就職先】https://www.meijo-u.ac.jp/career/results/

（備考）

c.修業年限期間内に卒業又は修了する学生の割合、留年者数、中途退学者数（任意記載事項）

学部等名	入学者数	修業年限期間内卒業・修了者数	留年者数	中途退学者数	その他
	人 (100%)	人 (　　%)	人 (　　%)	人 (　　%)	人 (　　%)
	人 (100%)	人 (　　%)	人 (　　%)	人 (　　%)	人 (　　%)
合計	人 (100%)	人 (　　%)	人 (　　%)	人 (　　%)	人 (　　%)

（備考）

⑤授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること

（概要）

授業計画（シラバス）は、前年 11 月から 12 月にかけて専任教員及び非常勤講師に作成を依頼し、校正を経て、教務システムに反映させる。在学生の新年度ガイダンスを 3 月下旬に実施することから、この時期に次年度のシラバスを本学ホームページで公開している（履修登録は 4 月から可能）。

各教員には「名城大学シラバス作成要項」を配布し、作成にあたり、項目ごとに記述例も含め、詳細な説明をしている。本学のシラバスの主な項目は次のとおりである。

- 準備学習・事後学習
- 授業の概要と目的
- 実務経験と授業内容の関係
- 授業計画（各回の項目，内容）
- 成績評価方法及び評価基準
- 課題・定期試験に対するフィードバック
- 到達目標
- 科目ナンバリングコード
- 授業方法の形式

各教員の校正の後、シラバス作成要項に基づいて各教員が作成したシラバスの内容を教務委員等の担当者が「シラバス第三者チェック表」などを用いて確認をしている。
なお、シラバス作成要項は毎年内容を見直し、記述例を追加するとともに、各教員がシラバス作成後、自己点検できるように「セルフチェックシート」を添付している。科目担当教員と学部組織が協力して、学生に対して、分かり易いシラバスを作成し、学生の履修登録に資する授業科目の情報を公表している。

⑥学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること

（概要）

■授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要

名城大学アセスメント・ポリシーにおいて、科目レベルの評価はシラバスに記載してある方法で成績評価を行い、テストやレポートなど科目の内容に合わせた方法で実施することを定めている。

これを受けて、各教員は、シラバスの「成績評価方法及び評価基準」において、当該科目の到達目標に対する達成度の評価方法及び評価基準を具体的に記述し、成績評価を行っている。

各教員には、シラバス作成要項において「到達目標に対する評価方法及び評価基準をできる限り詳しく記述する」こと、各評価方法の割合をすべて「%」表記で統一することを要請している。

また、シラバス作成要項には評価方法の記述例を示し、曖昧になりがちな「平常点」については授業参加度〇%、発言頻度□%、授業態度△%などと具体例を挙げ、客観的、かつ、明確な成績評価に繋がるように工夫している。

【名城大学のアセスメント・ポリシー】

大学及び学科レベルでは、ディプロマ・ポリシーの科目群ごとの GPA の数値に加えて、単位取得状況、学修行動調査、卒業時調査及び学生アンケートにより評価する。

科目レベルでは、シラバスに記載してある方法で成績評価を行う。評価は、テストやレポートなど科目の内容に合わせた方法で実施する。

卒業研究については、各学部が定める評価基準に基づいて卒業論文等の成果を評価し、大学及び学科レベルでは、その集計値で評価する。

■卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要

本学では、大学全体の学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）とともに、名城大学学則に定める「人材の養成に関する目的」に基づき、学科ごとに卒業時に修得しておくべき学修成果や卒業要件等を明確にした学位授与方針を策定・明示している。

また、全学で掲げる学位授与方針の達成状況は、教育の質保証、学修成果の可視化の観点から、在学時（２年次以降）に学生アンケートを実施し、確認している。このアンケートでは、「教養教育」、「専門教育」及び「主体的な学び・成長実感」について質問し、学生の成長を確認している。

【名城大学の学位授与方針】

名城大学は、「穏健中正で実行力に富み、国家、社会の信頼に値する人材を育成する」という立学の精神に基づき、次の資質・能力を身につけた学生に学位を授与します。

①幅広い教養を身につけ、広い視野に立って物事の公正な判断をすることができる。

②専門分野に熟達し、社会における諸問題の解決のためにその知識・能力を活用できる。

③主体的に学び続け、学んだことを分かち合い、共に成長することができる。

各学部では、学位授与方針に示す資質・能力を身につけさせるため、各学科で適切な教育課程を編成し、実施している。また、人材養成目的及び学位授与方針の達成につながる履修の系統性を明示するために、卒業に必要な合計単位数のみならず、科目区分ごとの必要単位数を設定している。卒業の判定にあたっては、所定の年数を在学し、当該学科の教育課程に従い卒業に必要な単位数を修得している者に対し、各学部教授会における学位授与方針を踏まえた議を経て、決定している。

学部名	学科名	卒業又は修了に必要となる単位数	ＧＰＡ制度の採用（任意記載事項）	履修単位の登録上限（任意記載事項）
法学部	法学科	124 単位	有	48 単位
経営学部	経営学科	124 単位	有	（1～3 年次）46 単位 （4 年次）48 単位
	国際経営学科	124 単位	有	
経済学部	経済学科	124 単位	有	46 単位
	産業社会学科	124 単位	有	
理工学部	数学科	124 単位	有	49 単位
	電気電子工学科	124 単位	有	
	化学・物質学科	124 単位	有	
	材料機能工学科	124 単位	有	
	応用化学科	124 単位	有	
	機械工学科	124 単位	有	
	交通機械工学科	124 単位	有	
	メカトロニクス工学科	124 単位	有	
	社会基盤デザイン工学科	124 単位	有	
	環境創造工学科	124 単位	有	
	建築学科	124 単位	有	
農学部	生物資源学科	124 単位	有	48 単位
	応用生物化学科	124 単位	有	
	生物環境科学科	124 単位	有	
薬学部	薬学科	186 単位	有	49.5 単位
都市情報学部	都市情報学科	124 単位	有	48 単位
人間学部	人間学科	124 単位	有	48 単位
外国語学部	国際英語学科	124 単位	有	46 単位
情報工学部	情報工学科	124 単位	有	49 単位
ＧＰＡの活用状況（任意記載事項）		前年度の GPA が 3.5 以上の場合、各学部で定める履修単位の登録上限に加えて年間 4 単位多く履修することができる。 公表方法：各学部学生便覧「学部事項」に記載。 （https://www.meijo-u.ac.jp/student_staff/guidebook.html）		
学生の学修状況に係る参考情報（任意記載事項）		公表方法： 【学生の受賞・表彰の状況】 本学ホームページ内「NEWS」に該当記事を随時掲載。 （https://www.meijo-u.ac.jp/news/） 【学生の在学中の学修時間・学修到達度等】 以下ページのうち「教育改善活動」に掲載。 （https://www.meijo-u.ac.jp/about/public/）		

⑦校地、校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること

公表方法：https://www.meijo-u.ac.jp/about/campus/

⑧授業料、入学金その他の大学等が徴収する費用に関すること

学部名	学科名	授業料 （年間）	入学金	その他	備考（任意記載事項）
法学部	法学科	718,000 円	200,000 円	年間 194,000 円	
経営学部	経営学科				
	国際経営学科				
経済学部	経済学科				
	産業社会学科				
理工学部	数学科	1,010,000 円	200,000 円	年間 334,000 円	
	電気電子工学科				
	化学・物質学科				
	材料機能工学科				
	応用化学科				
	機械工学科				
	交通機械工学科				
	メカトロニクス工学科				
	社会基盤デザイン工学科				
	環境創造工学科				
	建築学科				
農学部	生物資源学科	1,008,000 円	200,000 円	年間 377,000 円	
	応用生物化学科				
	生物環境科学科				
薬学部	薬学科	1,453,000 円	200,000 円	1～4・6 年次 年間 547,000 円	
				5 年次 年間 847,000 円	
都市情報学部	都市情報学科	902,000 円	200,000 円	年間 247,000 円	
人間学部	人間学科	730,000 円	200,000 円	年間 247,000 円	
外国語学部	国際英語学科	945,000 円	200,000 円	年間 247,000 円	
情報工学部	情報工学科	1,010,000 円	200,000 円	年間 334,000 円	

⑨大学等が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること

a.学生の修学に係る支援に関する取組

（概要）

本学では、各学部において基礎ゼミナール及び専門ゼミナールの教員による担任制を導入し、学生の学生生活を支援し、留年や退学・除籍の減少に努めている。この制度においては、各学部で設定された修得単位数、GPA、欠席回数等を基準に、学生への個別面談や指導を含む修学指導を行っている。休学や退学を考える学生に対しては、担当教員が面談を行い、学生の状況を把握し、適切な対処を行っている。基礎科目での欠格を防ぐために、教職員が一丸となって早期に対応をすることで、留年防止に取り組んでいる。また、授業料延納願を提出した学生、成績不振の学生、留年や休・退学の可能性がある学生に対しても状況を把握している。加えて、成績一覧表を保証人に送付し、家庭内での学修状況の把握を促進するとともに、父母懇談会を通じて父母との連携も図っている。

補習・補充教育に相当するものとして、少しでも早く大学での学びに適応できるよう、正課授業に加え、様々な学習機会を提供している。学校推薦型選抜や総合型選抜等による早期合格者に対しては、合格後も学習習慣を維持し、大学での学びを円滑に開始することを目的に「入学前学習支援プログラム（MEC：Meijo Encouraging Program）（https://www.meijo-u.ac.jp/academics/education/support/）」を実施している。2023年度からは、一般選抜合格者を含む全新入生を対象に、オンデマンド形式で「入学前自校教育」プログラムを展開している。このプログラムを通じて、本学で学びたいことや、どのような学生生活を送りたいかを深く考える機会を提供している。入学後の学習支援としては、高校での未履修・理解不足の科目の補習授業を行う「名城サプリメント教育（https://www.meijo-u.ac.jp/academics/education/remedial.html）」を実施し、大学での学びの更なる充実を図っている。

障がいのある学生には、障がい学生支援センターと関係部署が連携し、入学前の時点で、入学試験時の特別措置及び入学後の生活・授業支援等の相談に応じ、適切な情報提供を行っている。

奨学金については、日本学生支援機構が実施する奨学金制度の申請に係る支援の他、本学独自の給付型奨学金制度を設け、成績上位学生や経済的理由により修学が困難な学生に対し支援を行っている。
（学内奨学金制度：https://www.meijo-u.ac.jp/campus/support/scholarship01/）
なお、入学者の入学金及び前期分の授業料の徴収を入学後まで猶予する取組は現状実施していない。

b.進路選択に係る支援に関する取組

（概要）

本学では、キャリアセンターが中心となり、1年次から一貫したキャリア支援プログラムを次のとおり実施している。

①1・2年生を対象としたキャリア形成サポート

学生が入学後の早い段階から自分の特性・適性を理解し、進路について自発的に深く考える場として、講演会や同センター職員による個別相談を実施し、早期から「自身の生き方」や「将来の進路・キャリア」等について考え、有意義な学生生活を過ごすことができるよう支援を行っている。

②3・4年生を対象とした就職支援

就職ガイダンス、業界・企業研究セミナー、各種選考対策等の様々な就職イベントを開催するとともに、担当職員による個別面談・相談等を実施している。また、常駐するキャリアカウンセラーによる、就職相談、エントリーシート・履歴書添削、模擬面接なども実施している。

以上の取り組みの他にも、全学年を対象としたキャリア形成支援として、インターンシップ支援、公務員試験・資格取得講座を実施している。

本学が実施するキャリア支援プログラムの詳細は、以下ページに掲載。
（キャリア支援プログラム：https://www.meijo-u.ac.jp/career/m_career.html）

c.学生の心身の健康等に係る支援に関する取組

（概要）
本学では、保健センター及び学生相談室等を中心に、次のとおり学生の心身の健康等に係る支援を行っている。

①定期健康診断：毎年4月頃に全学生を対象に健康診断を実施し、異常が認められた場合には再検査を行い、校医による適切な指導・助言を受けられる。
②校医診療：全キャンパスで曜日毎に行っており、無料で受けられる。
③精神科相談：健康上の心配事について、看護師や校医に相談することができる。
④学生相談室：人間関係、進路等の学生生活で抱える様々な問題について、カウンセラーに相談することができる。
⑤ハラスメント防止：ハラスメント防止を目的としたガイドラインを策定するとともに、全学的な相談窓口を保健センターに設置している。
⑥100円朝食：学生の食生活改善、学修意欲の向上等を目的に、本学への寄付金を原資とした「100円朝食」を学内食堂において提供している。

（保健センター：https://www.meijo-u.ac.jp/campus/life/health_center/）
（学生相談室：https://www.meijo-u.ac.jp/campus/life/consultation.html）

⑩教育研究活動等の状況についての情報の公表の方法

公表方法：
【大学の教育研究上の目的】
https://www.meijo-u.ac.jp/about/outline/pdf/regulations_2025-1.pdf
（名城大学学則第1条（目的）に掲載）

【卒業の認定に関する方針、教育課程の編成及び実施に関する方針、入学者の受入れに関する方針】
https://www.meijo-u.ac.jp/about/outline/policy.html

【教育研究上の基本組織】
https://www.meijo-u.ac.jp/about/outline/organization.html

【教員組織、教員の数】
https://www.meijo-u.ac.jp/about/data/teacher.html

【各教員が有する学位及び業績】
https://www.meijo-u.ac.jp/about/public/school_education_law.html（「教員業績」に掲載）

【入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数】
https://www.meijo-u.ac.jp/about/data/student/

【進学者数及びその他進学の状況】

https://www.meijo-u.ac.jp/career/results/gs.html

【就職者数及びその他就職の状況】
https://www.meijo-u.ac.jp/career/results/

【学修の成果に係る評価の基準】
https://www.meijo-u.ac.jp/files/assessment.pdf

【卒業又は修了の認定に当たっての基準】
https://www.meijo-u.ac.jp/academics/（各学科及び研究科ページ下部「もっと知る」の「カリキュラム」を選択。「取得可能な学位・卒業要件」に卒業又は修了要件を掲載。）

【校地、校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境】
https://www.meijo-u.ac.jp/about/campus/

【授業料、入学料その他の大学が徴収する費用】
https://www.meijo-u.ac.jp/campus/tuition/

【大学が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援】
〔修学に係る支援〕https://www.meijo-u.ac.jp/academics/education/
〔進路選択に係る支援〕https://www.meijo-u.ac.jp/career/
〔心身の健康等に係る支援〕https://www.meijo-u.ac.jp/campus/life/（「保健センター」及び「学生相談室」に掲載）

○総合知を育成するための学生の学びの充実に向けた取り組み（任意様式）

総合知を育成するための学生の学びの充実に向けた本学の取り組みとして、データサイエンス・AI 分野教育の充実があげられる。本学では、全学部の学生がデータサイエンス・AI の広範な知識を習得できるよう、データサイエンス及び AI の基礎的素養を修得することを目的とした「データサイエンス・AI 入門」や、専門分野でその知識を活かすことを目的とした「データサイエンス・AI 応用基礎Ⅰ」および「データサイエンス・AI 応用基礎Ⅱ」を開講している。
「データサイエンス・AI 入門」は 2023 年度より文部科学省の「数理・データサイエンス・AI 教育プログラム認定制度（リテラシーレベル）」に認定されている。
さらに、2024 年度には一部学部で、文部科学省の「数理・データサイエンス・AI 教育プログラム認定制度（応用基礎レベル）」の認定を受けたプログラムを先行して開講し、2025 年度にはその他の全学部に拡大して、全学部の学生が受講できる体制を整えた。また、これらのプログラムの修了者に対して、レベルに応じたデジタルバッジを発行している。

備考　この用紙の大きさは、日本産業規格Ａ４とする。

（別紙）

※ この別紙は、更新確認申請書を提出する場合に提出すること。

※ 以下に掲げる人数を記載すべき全ての欄（合計欄を含む。）について、該当する人数が1人以上10人以下の場合には、当該欄に「－」を記載すること。該当する人数が0人の場合には、「0人」と記載すること。

学校コード（13桁）	F123310106666
学校名（○○大学 等）	名城大学
設置者名（学校法人○○学園 等）	学校法人名城大学

１．前年度の授業料等減免対象者及び給付奨学生の数

		前半期	後半期	年間
支援対象者数 ※括弧内は多子世帯の学生（内数） ※家計急変による者を除く。		2,856人（1.807人）	2,799人（1,729人）	2,935人（1,853人）
内訳	第Ⅰ区分	600人	560人	
	（うち多子世帯）	（ 123人）	（ 89人）	
	第Ⅱ区分	271人	283人	
	（うち多子世帯）	（ 42人）	（ 42人）	
	第Ⅲ区分	202人	203人	
	（うち多子世帯）	（ 47人）	（ 36人）	
	第Ⅳ区分（理工農）	188人	191人	
	第Ⅳ区分（多子世帯）	298人	242人	
	区分外（多子世帯）	1,297人	1,320人	
家計急変による 支援対象者（年間）				13人（ ― ）
合計（年間）				2,948人（1,856人）
（備考）				

※ 本表において、多子世帯とは大学等における修学の支援に関する法律（令和元年法律第８号）第４条第２項第１号に掲げる授業料等減免対象者をいい、第Ⅰ区分、第Ⅱ区分、第Ⅲ区分、第Ⅳ区分（理工農）とは、それぞれ大学等における修学の支援に関する法律施行令（令和元年政令第４９号）第２条第１項第２号イ～ニに掲げる区分をいう。

※ 備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

２．前年度に授業料等減免対象者としての認定の取消しを受けた者及び給付奨学生認定の取消しを受けた者の数

（１）偽りその他不正の手段により授業料等減免又は学資支給金の支給を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

年間	0人

（２）適格認定における学業成績の判定の結果、学業成績が廃止の区分に該当したことにより認定の取消しを受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が２年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が２年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修業年限で卒業又は修了できないことが確定	38人	人	人
修得単位数が「廃止」の基準に該当 （単位制によらない専門学校にあっては、履修科目の単位時間数が廃止の基準に該当）	18人	人	人
出席率が「廃止」の基準に該当又は学修意欲が著しく低い状況	0人	人	人
「警告」の区分に連続して該当 ※「停止」となった場合を除く。	23人	人	人
計	56人	人	人
（備考）			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

上記の（２）のうち、学業成績が著しく不良であると認められる者であって、当該学業成績が著しく不良であることについて災害、傷病その他やむを得ない事由があると認められず、遡って認定の効力を失った者の数

右以外の大学等		短期大学（修業年限が２年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が２年以下のものに限る。）			
年間	0人	前半期	人	後半期	人

（３）退学又は停学（期間の定めのないもの又は３月以上の期間のものに限る。）の処分を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

退学	0人
３月以上の停学	0人
年間計	0人
（備考）	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

３．前年度に授業料等減免対象者としての認定の効力の停止を受けた者及び給付奨学生認定の効力の停止を受けた者の数

（１）停学（３月未満の期間のものに限る。）又は訓告の処分を受けたことにより認定の効力の停止を受けた者の数

３月未満の停学	0人
訓告	0人
年間計	0人
（備考）	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

（２）適格認定における学業成績の判定の結果、停止を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が２年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が２年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
ＧＰＡ等が下位４分の１	47人	人	人

４．適格認定における学業成績の判定の結果、警告を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が２年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が２年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修得単位数が「警告」の基準に該当	―人	人	人
ＧＰＡ等が下位４分の１	376人	人	人
出席率が「警告」の基準に該当又は学修意欲が低い状況	0人	人	人
計	376人	人	人
（備考）			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。